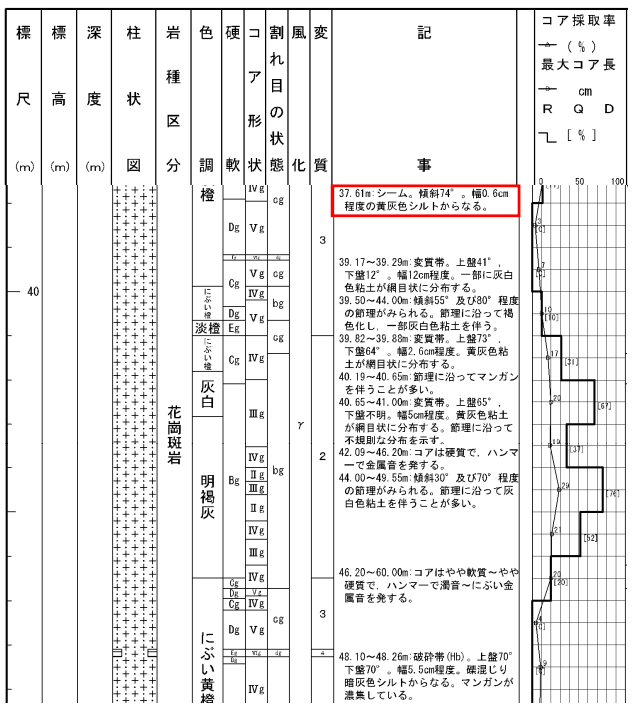
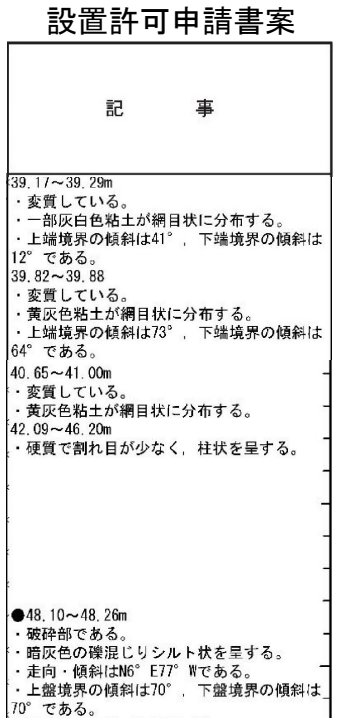
# 柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-10孔 深度37.61m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

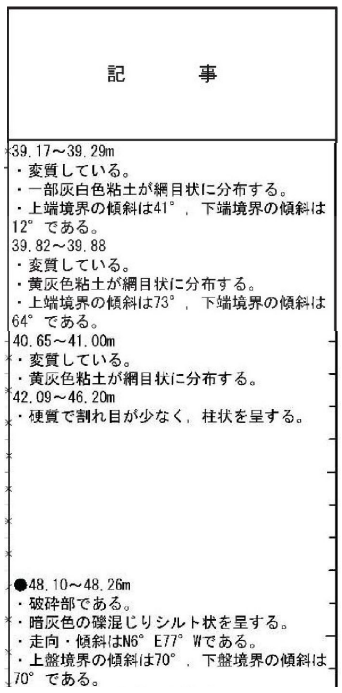
委託報告書
（平成20年）



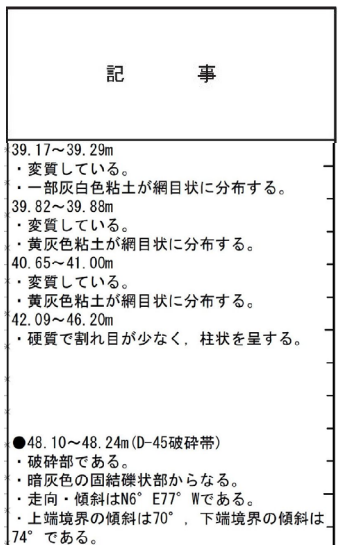

設置許可申請書案



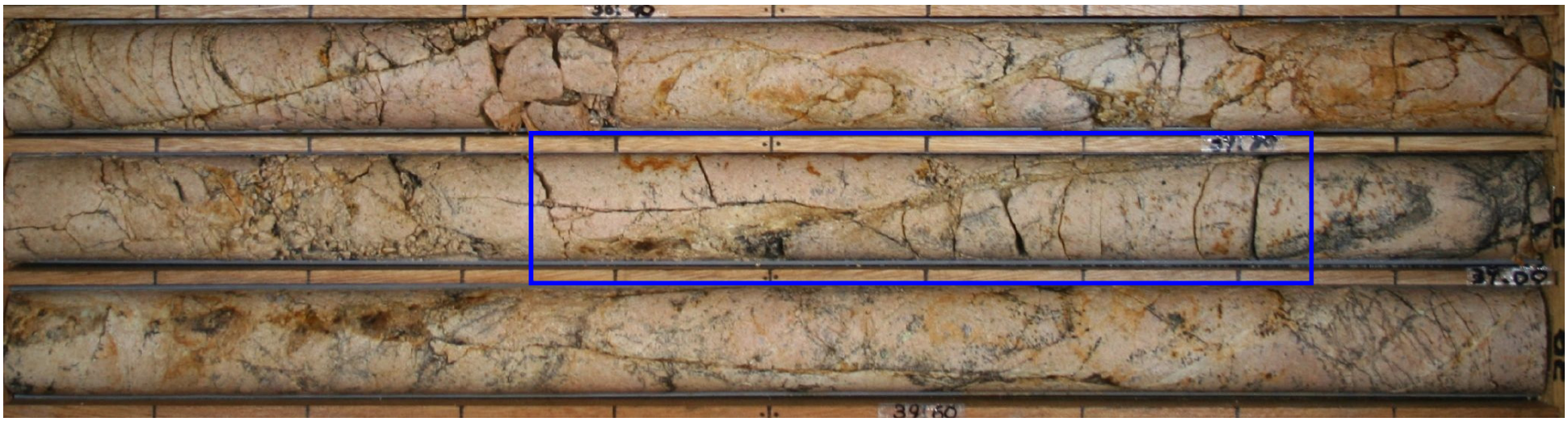

設置許可申請書
（平成27年11月）




審査資料
（平成29年12月22日）




| 委託報告書<br>（平成20年） | 設置許可申請書案 | 設置許可申請書<br>（平成27年11月） | 審査資料<br>（平成29年12月22日） |
|---|---|---|---|
| 37.61m:シーム。傾斜74°。幅0.6cm程度の黄灰色シルトからなる。 | 記載なし | 記載なし | 記載なし |



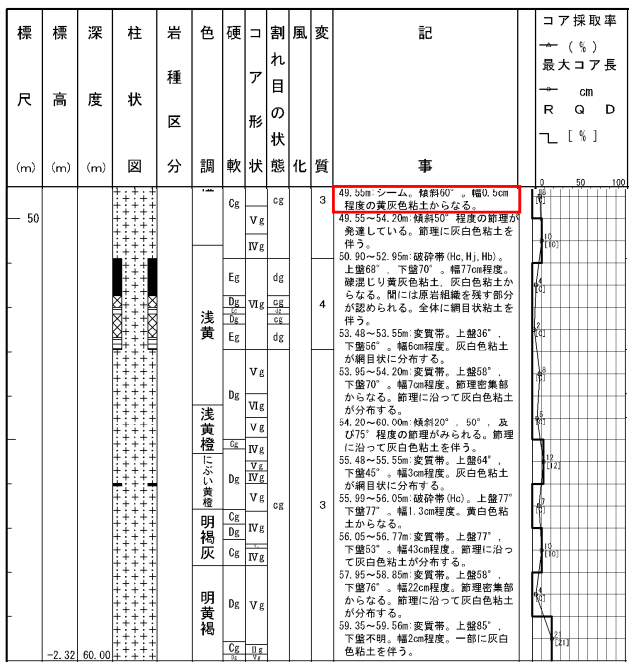
凡 例
:シーム

0　5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-①-10孔 深度49.55m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

## 委託報告書（平成20年）




## 設置許可申請書案

記　事

●50.90～52.95m(D-5破砕帯)
・破砕部である。
・黄灰～灰白色の粘土～礫混じり粘土状～淺黄色の粘土混じり礫状を呈する。
・走向・傾斜はNS71°Wである。
・上盤境界の傾斜は68°，下盤境界の傾斜は70°である。
53.48～53.55m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
・上端境界の傾斜は36°，下端境界の傾斜は56°である。
53.95～54.20m
・変質している。
・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
・上端境界の傾斜は58°，下端境界の傾斜は70°である。
55.48～55.55m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は45°である。
●55.99～56.05m
・破砕部である。
・黄白色の粘土状を呈する。
・黄白色粘土：累計厚13mm
・走向・傾斜はN34°E83°Wである。
・上盤境界の傾斜は77°，下盤境界の傾斜は77°である。
56.05～56.77m
・変質している。
・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
・上端境界の傾斜は77°，下端境界の傾斜は53°である。
57.95～58.85m
・変質している。
・割れ目が密集しており，割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
・上端境界の傾斜は58°，下端境界の傾斜は76°である。
59.35～59.56m
・変質している。
・一部灰白色粘土を伴う。
・上端境界の傾斜は85°，下端境界の傾斜は不明瞭である。

## 設置許可申請書（平成27年11月）

記　事

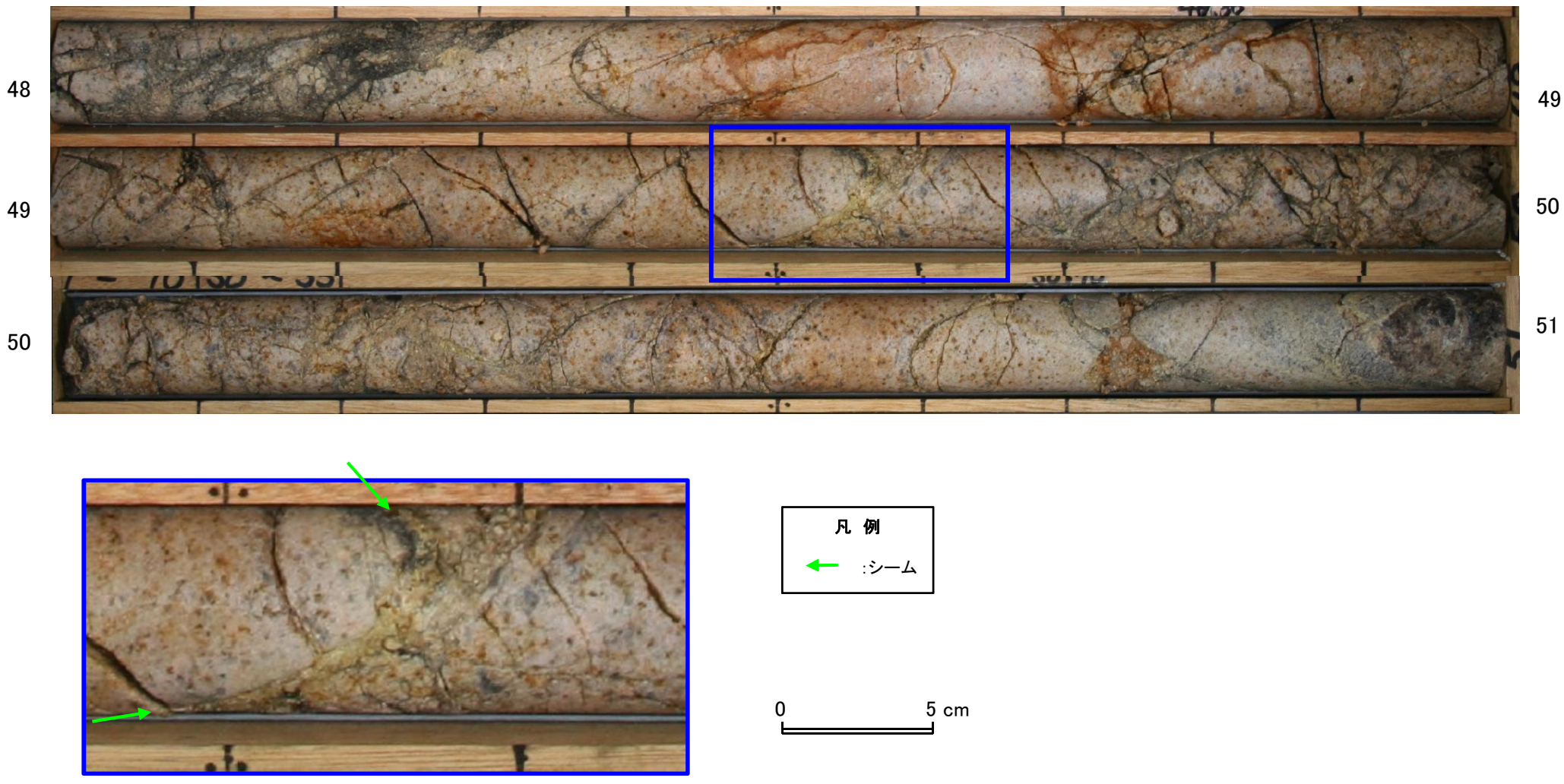
●50.90～52.95m(D-5破砕帯)
・破砕部である。
・黄灰～灰白色の粘土～礫混じり粘土状～淺黄色の粘土混じり礫状を呈する。
・走向・傾斜はNS71°Wである。
・上盤境界の傾斜は68°，下盤境界の傾斜は70°である。
53.48～53.55m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
・上端境界の傾斜は36°，下端境界の傾斜は56°である。
53.95～54.20m
・変質している。
・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
・上端境界の傾斜は58°，下端境界の傾斜は70°である。
55.48～55.55m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
・上端境界の傾斜は64°，下端境界の傾斜は45°である。
●55.99～56.05m
・破砕部である。
・黄白色の粘土状を呈する。
・黄白色粘土：累計厚13mm
・走向・傾斜はN34°E83°Wである。
・上盤境界の傾斜は77°，下盤境界の傾斜は77°である。
56.05～56.77m
・変質している。
・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
・上端境界の傾斜は77°，下端境界の傾斜は53°である。
57.95～58.85m
・変質している。
・割れ目が密集しており，割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
・上端境界の傾斜は58°，下端境界の傾斜は76°である。
59.35～59.56m
・変質している。
・一部灰白色粘土を伴う。
・上端境界の傾斜は85°，下端境界の傾斜は不明瞭である。

## 審査資料（平成29年12月22日）

記　事

●50.90～52.95m(D-5破砕帯)
・破砕部である。
・主に淺黄色の固結礫状部からなる。
・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm
・走向・傾斜はNS71°Wである。
・上端境界の傾斜は69°，下端境界の傾斜は70°である。
53.48～53.55m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
53.95～54.20m
・変質している。
・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
55.48～55.55m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
●55.99～56.05m(D-46破砕帯)
・破砕部である。
・黄白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.3cmである。
・走向・傾斜はN34°E83°Wである。
・上端境界の傾斜は77°，下端境界の傾斜は77°である。
56.05～56.77m
・変質している。
・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
57.95～58.85m
・変質している。
・割れ目が密集しており，割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
59.35～59.56m
・変質している。
・一部灰白色粘土を伴う。

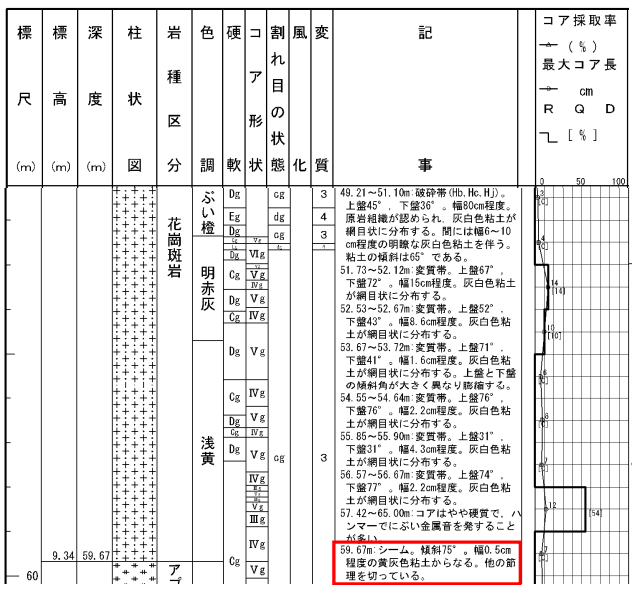
| 委託報告書（平成20年） | 設置許可申請書案 | 設置許可申請書（平成27年11月） | 審査資料（平成29年12月22日） |
|---|---|---|---|
| 49.55m:シーム。傾斜60°。幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし | 記載なし |



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-②-1孔 深度59.67m）

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）




設置許可申請書案

| 記　　事 |
|---|
| ●49.21～51.10m（D-1破砕帯）<br>・破砕部である。<br>・右ずれ正断層センスである。<br>・灰白色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。<br>・灰白色粘土：累計厚100mm<br>・走向・傾斜は未測定。<br>・上盤境界の傾斜は45°，下盤境界の傾斜は36°，主せん断面の傾斜は65°である。<br>51.10～57.42m<br>・軟質である。<br>51.73～52.12m<br>52.53～52.67m<br>53.67～53.72m<br>54.55～54.64m<br>55.85～55.90m<br>56.57～56.67m<br>・変質している。<br>・灰白色粘土が網目状に分布する。<br>・上端境界の傾斜は31°～76°，下端境界の傾斜は31°～77°である。<br>57.42～65.00m<br>・中硬質である。 |

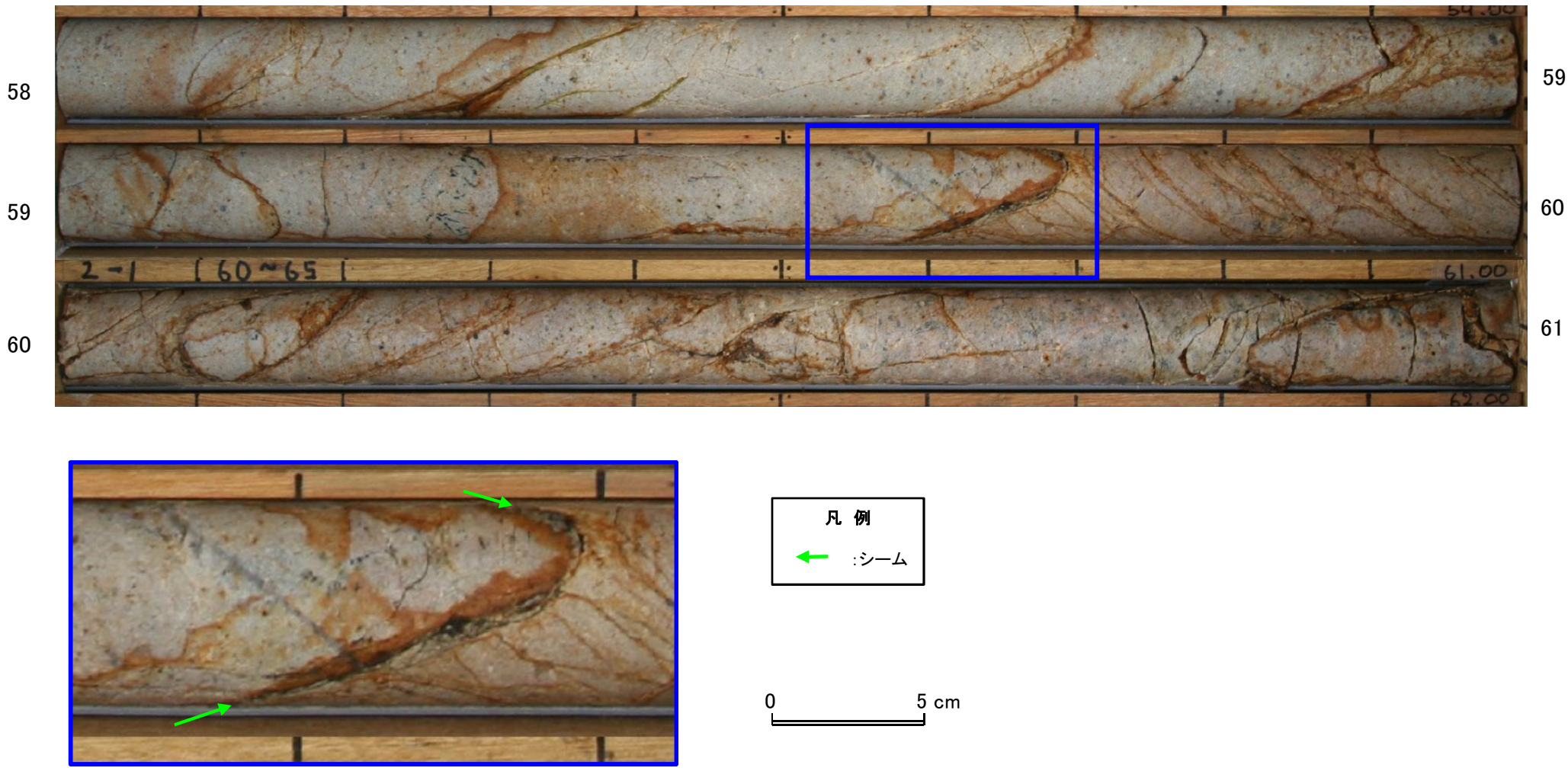
設置許可申請書
（平成27年11月）

| 記　　事 |
|---|
| ●49.21～51.10m（D-1破砕帯）<br>・破砕部である。<br>・右ずれ正断層センスである。<br>・灰白色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。<br>・灰白色粘土：累計厚100mm<br>・走向・傾斜は未測定。<br>・上盤境界の傾斜は45°，下盤境界の傾斜は36°，主せん断面の傾斜は65°である。<br>51.10～57.42m<br>・軟質である。<br>51.73～52.12m<br>52.53～52.67m<br>53.67～53.72m<br>54.55～54.64m<br>55.85～55.90m<br>56.57～56.67m<br>・変質している。<br>・灰白色粘土が網目状に分布する。<br>・上端境界の傾斜は31°～76°，下端境界の傾斜は31°～77°である。<br>57.42～65.00m<br>・中硬質である。 |

審査資料
（平成29年12月22日）

| 記　　事 |
|---|
| ●49.21～51.10m(D-1破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・右ずれ正断層センスである。<br>・主に淡桃灰～褐色の固結礫状部，灰白色の固結砂状部及び固結粘土状部からなる。<br>・橙色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm<br>・上端境界の傾斜は45°，下端境界の傾斜は36°，主せん断面の傾斜は65°である。<br>51.10～57.42m<br>・軟質である。<br>51.73～52.12m，52.53～52.67m，<br>53.67～53.72m，54.55～54.64m，<br>55.85～55.90m，56.57～56.67m<br>・変質している。<br>・灰白色粘土が網目状に分布する。<br>57.42～65.00m<br>・中硬質である。 |

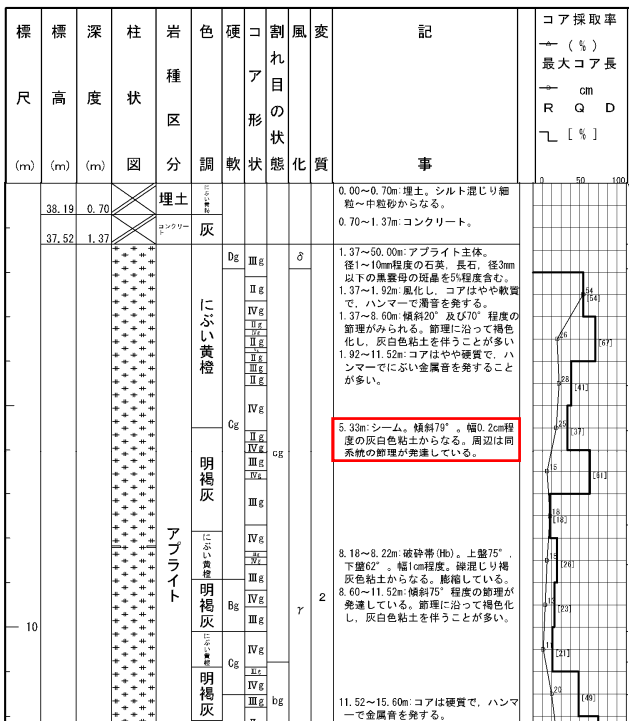
| 委託報告書<br>（平成20年） | 設置許可申請書案 | 設置許可申請書<br>（平成27年11月） | 審査資料<br>（平成29年12月22日） |
|---|---|---|---|
| 59.67m:シーム。傾斜75°。幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。他の節理を切っている。 | 記載なし | 記載なし | 記載なし |



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状（H20-③-1孔 深度5.33m）

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



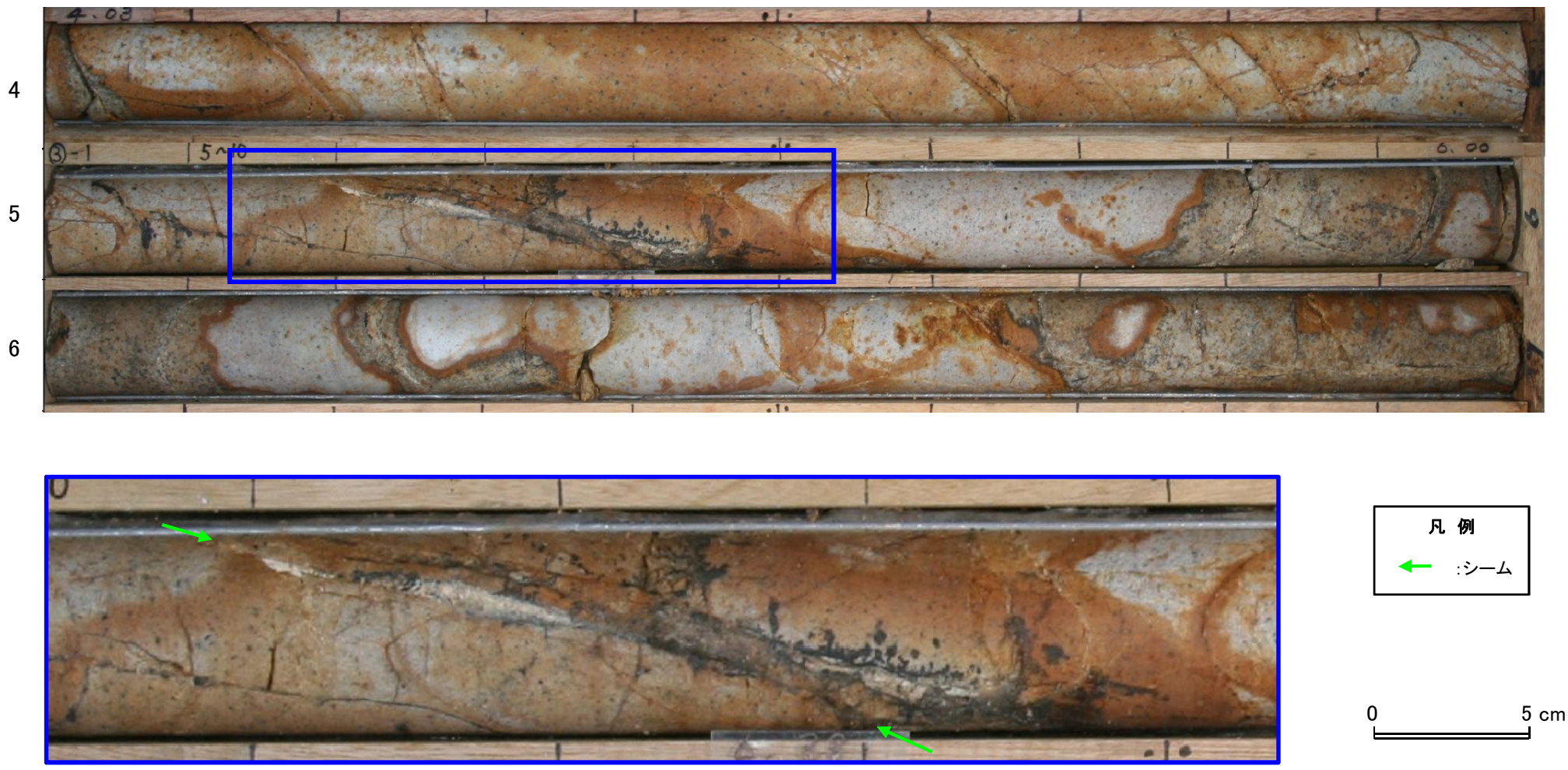

審査資料案

| 記　　事 |
|---|
| 0.00～0.70m<br>・埋土である。<br>・シルト混じり細～中粒砂である。<br>0.70～1.37m<br>・コンクリートである。<br>1.37～50.00m<br>・アプライト主体である。<br>1.37～1.92m<br>・風化部である。<br>5.33m<br>・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。<br><br>●8.18～8.22m(f-③-1-1破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐灰色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN79°W73°Sである。<br>・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は62°である。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　　事 |
|---|
| 0.00～0.70m<br>・埋土である。<br>・シルト混じり細～中粒砂である。<br>0.70～1.37m<br>・コンクリートである。<br>1.37～50.00m<br>・アプライト主体である。<br>1.37～1.92m<br>・風化部である。<br>5.33m<br>・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。<br><br>●8.18～8.22m(f-③-1-1破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐灰色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN79°W73°Sである。<br>・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は62°である。 |

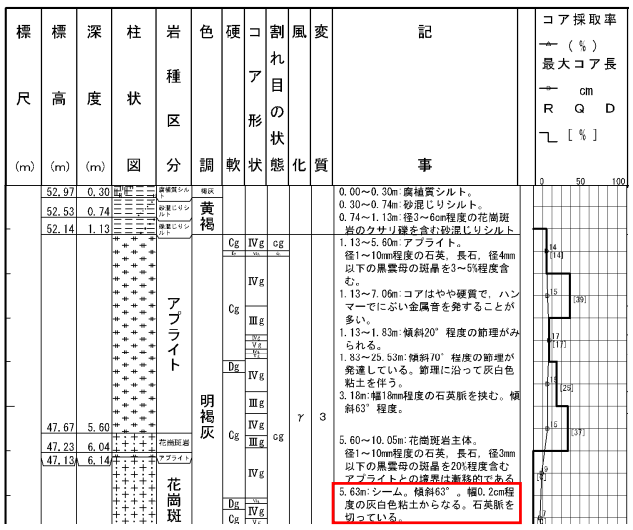
| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 5.33m:シーム。傾斜79°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 5.33m<br>・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。 | 5.33m<br>・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。 |



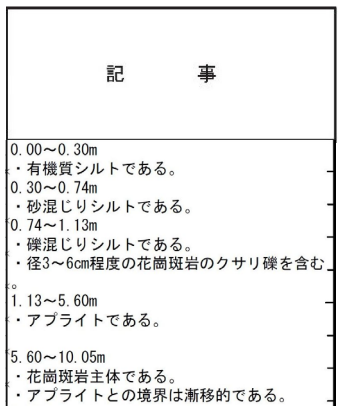
# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-1孔 5.63m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

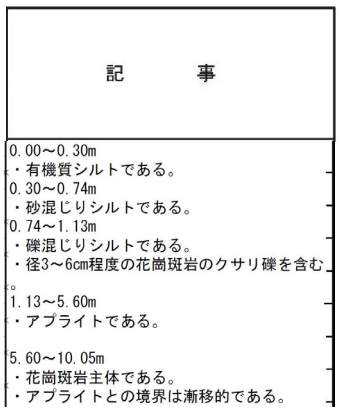
委託報告書
（平成20年）



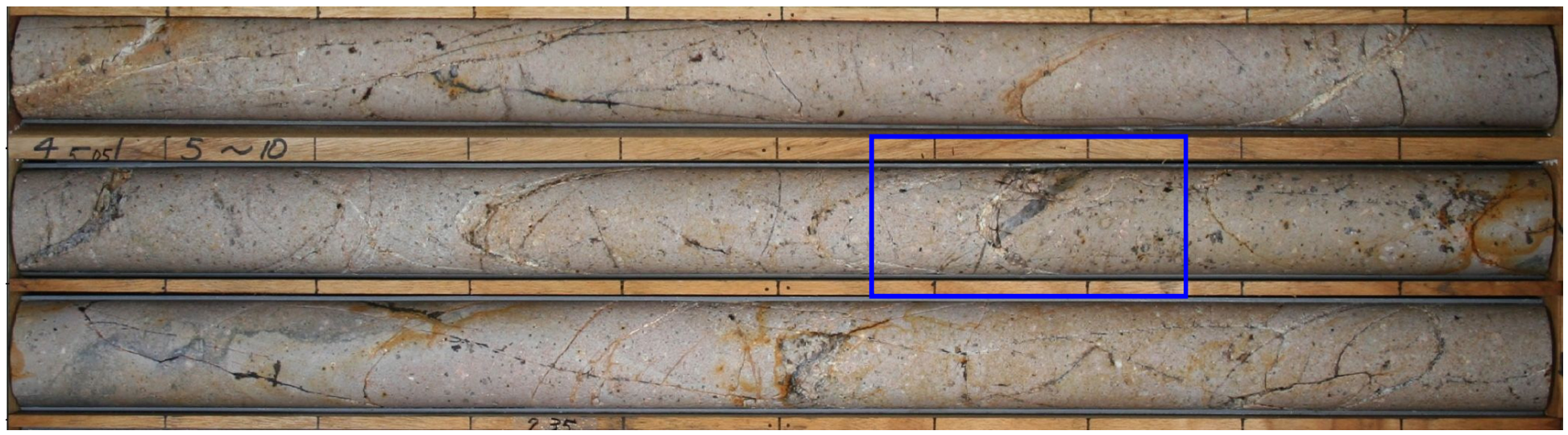

審査資料案

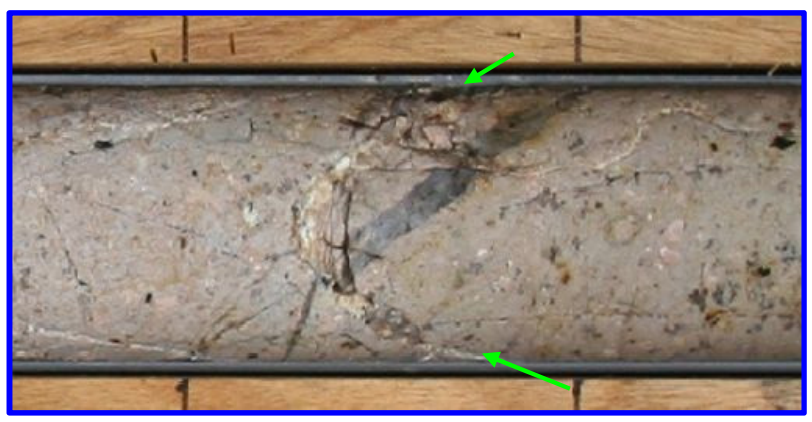



審査資料
（平成30年11月30日）




| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 5.63m:シーム。傾斜63°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。石英脈を切っている。 | 記載なし | 記載なし |



凡 例

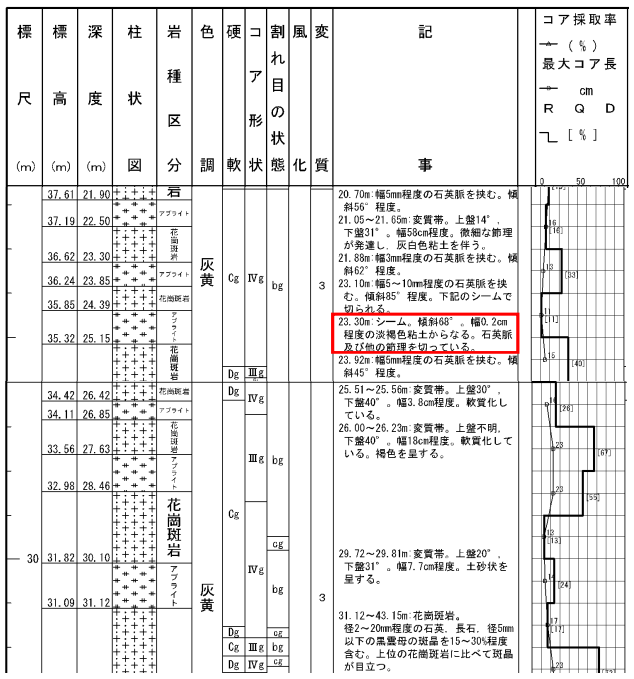
:シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 23.30m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）




審査資料案

| 記　事 |
|---|
| 20.15～20.42m，21.90～22.50m，<br>23.30～23.85m，24.39～25.15m，<br>26.42～26.85m，27.63～28.40m，<br>30.10～31.12m<br>・アプライトである。<br>20.70m<br>・幅5mmの石英脈を挟む。<br>21.05～21.65m<br>・変質している。<br>・微細な割れ目が発達し，灰白色粘土を伴う。<br>21.88m<br>・幅3mmの石英脈を挟む。<br>23.10m<br>・幅5～10mmの石英脈を挟む。<br>23.92m<br>・幅5mm程度の石英脈を挟む。<br>25.51～25.56m<br>・変質している。<br>・軟質化している。<br>26.00～26.23m<br>・変質している。<br>・褐色を呈し，軟質化している。<br>29.72～29.81m<br>・変質している。<br>・土砂状を呈する。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　事 |
|---|
| 20.15～20.42m，21.90～22.50m，<br>23.30～23.85m，24.39～25.15m，<br>26.42～26.85m，27.63～28.40m，<br>30.10～31.12m<br>・アプライトである。<br>20.70m<br>・幅5mmの石英脈を挟む。<br>21.05～21.65m<br>・変質している。<br>・微細な割れ目が発達し，灰白色粘土を伴う。<br>21.88m<br>・幅3mmの石英脈を挟む。<br>23.10m<br>・幅5～10mmの石英脈を挟む。<br>23.92m<br>・幅5mm程度の石英脈を挟む。<br>25.51～25.56m<br>・変質している。<br>・軟質化している。<br>26.00～26.23m<br>・変質している。<br>・褐色を呈し，軟質化している。<br>29.72～29.81m<br>・変質している。<br>・土砂状を呈する。 |

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 23.30m:シーム。傾斜68°。幅0.2cm程度の淡褐色粘土からなる。石英脈及び他の節理を切っている。 | 記載なし | 記載なし |

22　23

23　24

24　25

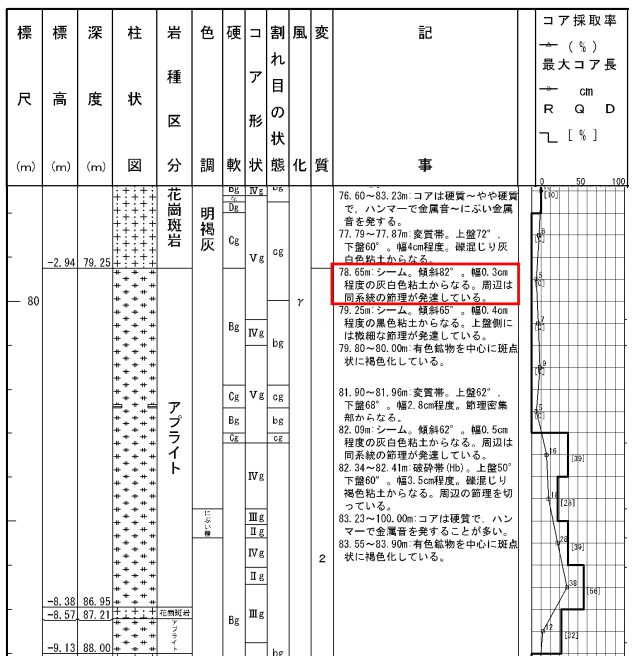
凡 例
:シーム

0　5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 78.65m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



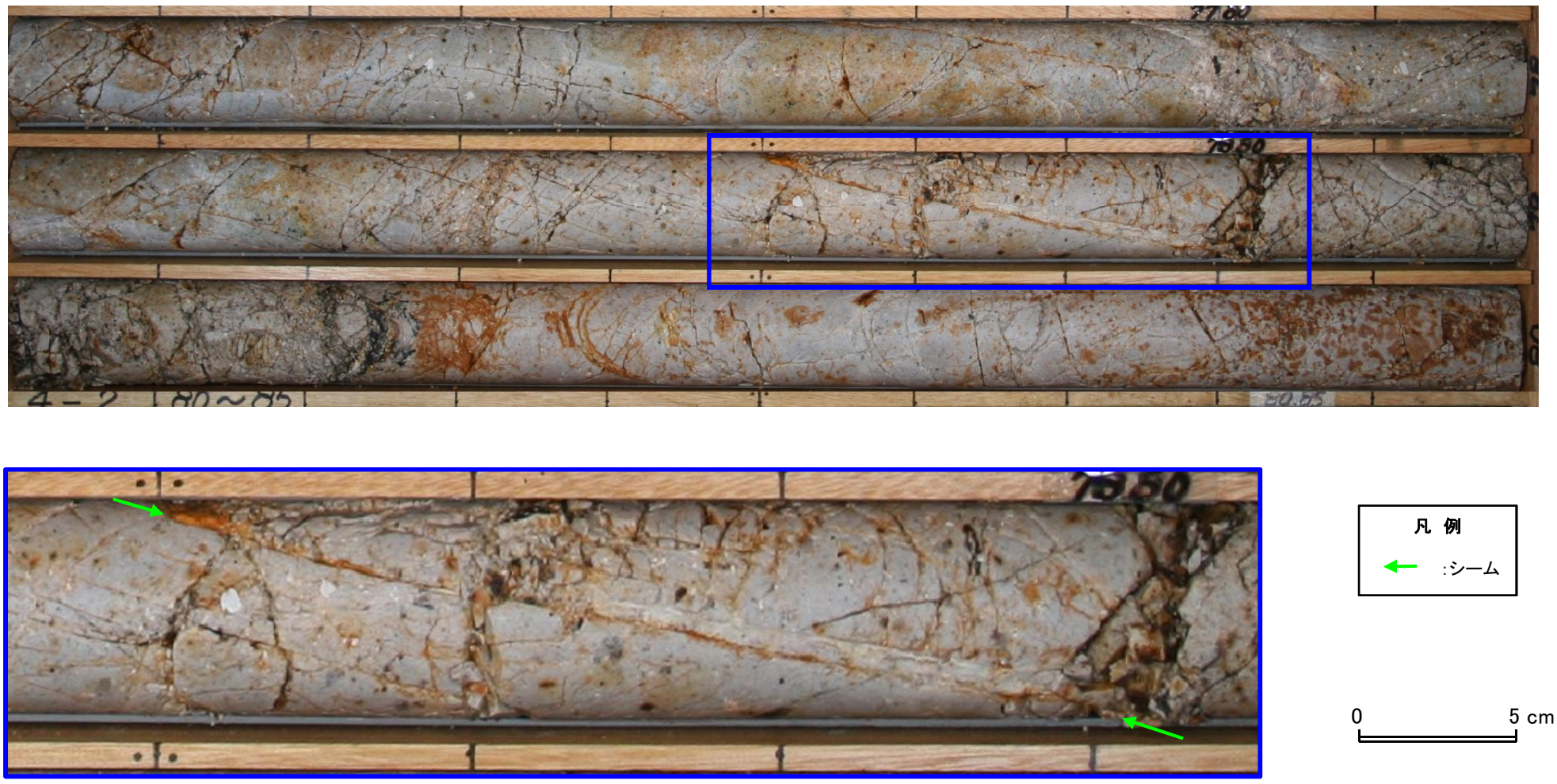

審査資料案

| 記　　事 |
|---|
| 77.79～77.87m<br>・変質している。<br>・礫混じり粘土状を呈する。<br>81.90～81.96m<br>・変質している。<br>・割れ目が密集する。<br>●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN4° W67° Wである。<br>・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。<br>83.55～83.90m<br>・斑点状に褐色化している。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　　事 |
|---|
| 77.79～77.87m<br>・変質している。<br>・礫混じり粘土状を呈する。<br>81.90～81.96m<br>・変質している。<br>・割れ目が密集する。<br>●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN4° W67° Wである。<br>・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。<br>83.55～83.90m<br>・斑点状に褐色化している。 |

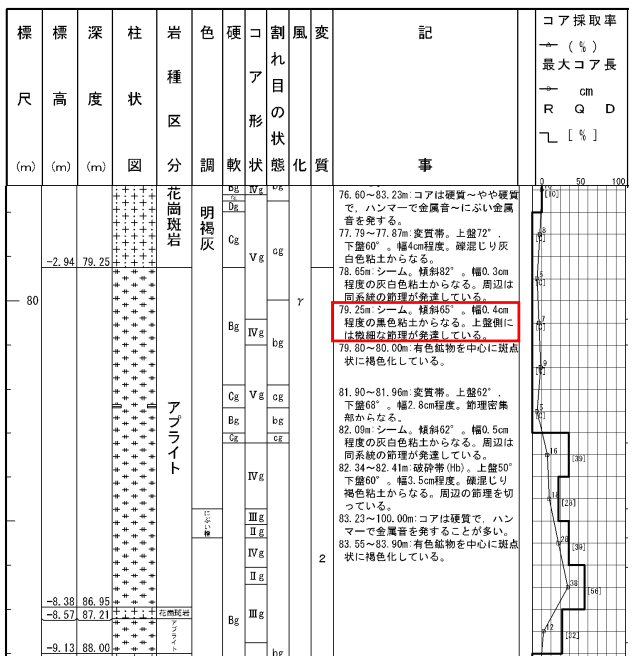
| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 78.65m:シーム。傾斜82°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 79.25m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）




審査資料案

| 記　事 |
|---|
| 77.79～77.87m<br>・変質している。<br>・礫混じり粘土状を呈する。<br>81.90～81.96m<br>・変質している。<br>・割れ目が密集する。<br>●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN4° W67° Wである。<br>・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。<br>83.55～83.90m<br>・斑点状に褐色化している。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　事 |
|---|
| 77.79～77.87m<br>・変質している。<br>・礫混じり粘土状を呈する。<br>81.90～81.96m<br>・変質している。<br>・割れ目が密集する。<br>●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN4° W67° Wである。<br>・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。<br>83.55～83.90m<br>・斑点状に褐色化している。 |

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 79.25m:シーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黒色粘土からなる。<br>上盤側には微細な節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |

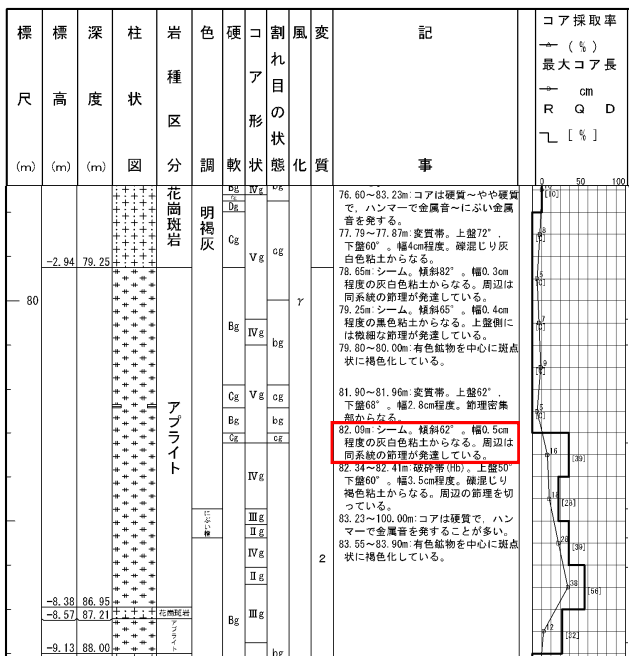
凡 例
:シーム

0　5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 82.09m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



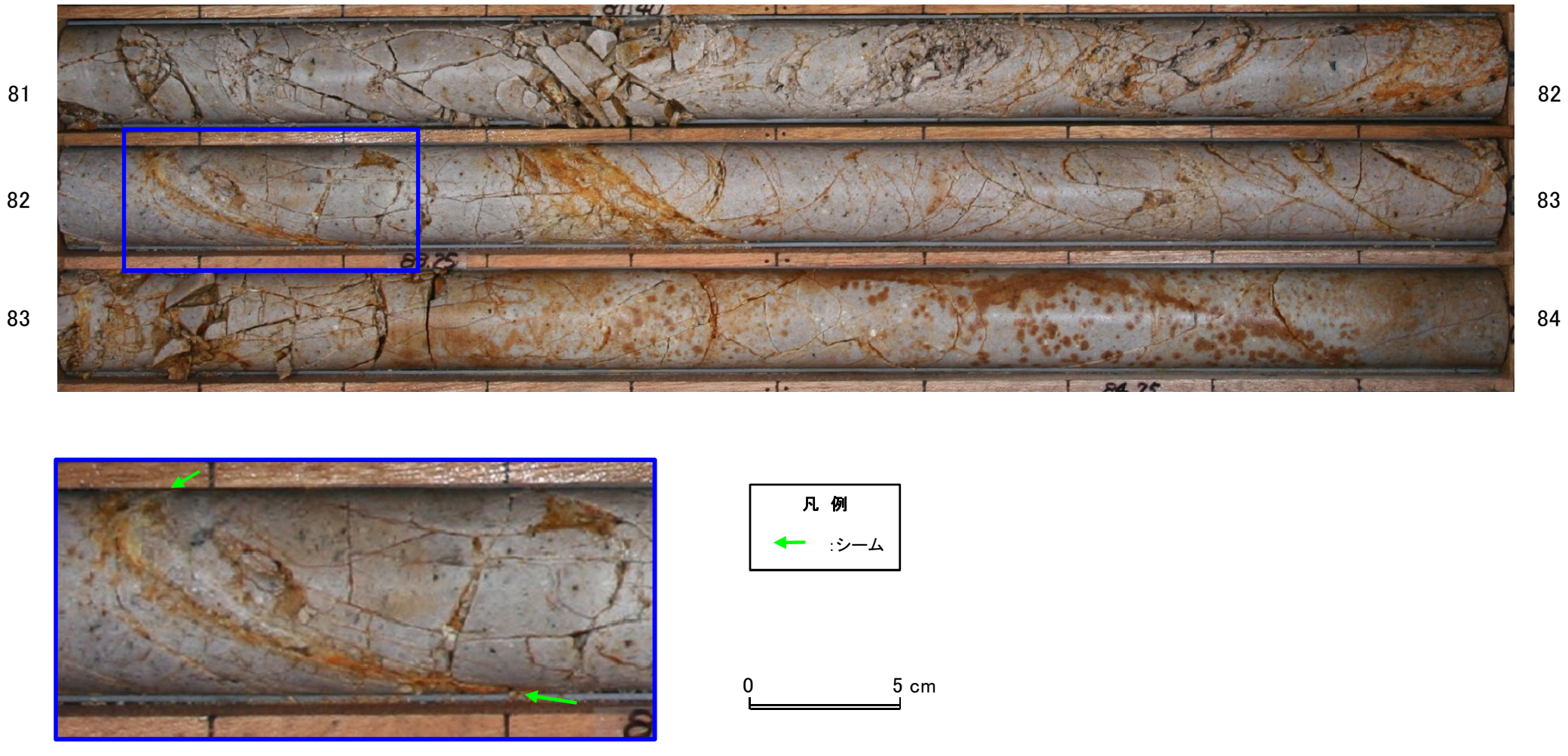

審査資料案

| 記　　事 |
|---|
| 77.79～77.87m<br>・変質している。<br>・礫混じり粘土状を呈する。<br>81.90～81.96m<br>・変質している。<br>・割れ目が密集する。<br>●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN4° W67° Wである。<br>・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。<br>83.55～83.90m<br>・斑点状に褐色化している。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　　事 |
|---|
| 77.79～77.87m<br>・変質している。<br>・礫混じり粘土状を呈する。<br>81.90～81.96m<br>・変質している。<br>・割れ目が密集する。<br>●82.34～82.41m(f-④-2-3破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN4° W67° Wである。<br>・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。<br>83.55～83.90m<br>・斑点状に褐色化している。 |

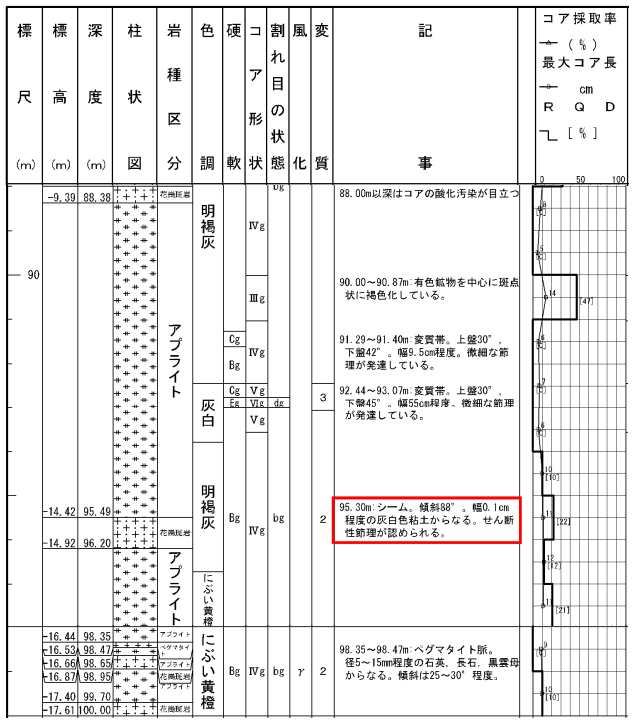
| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 82.09m:シーム。傾斜62°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 95.30m)

・粘土状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



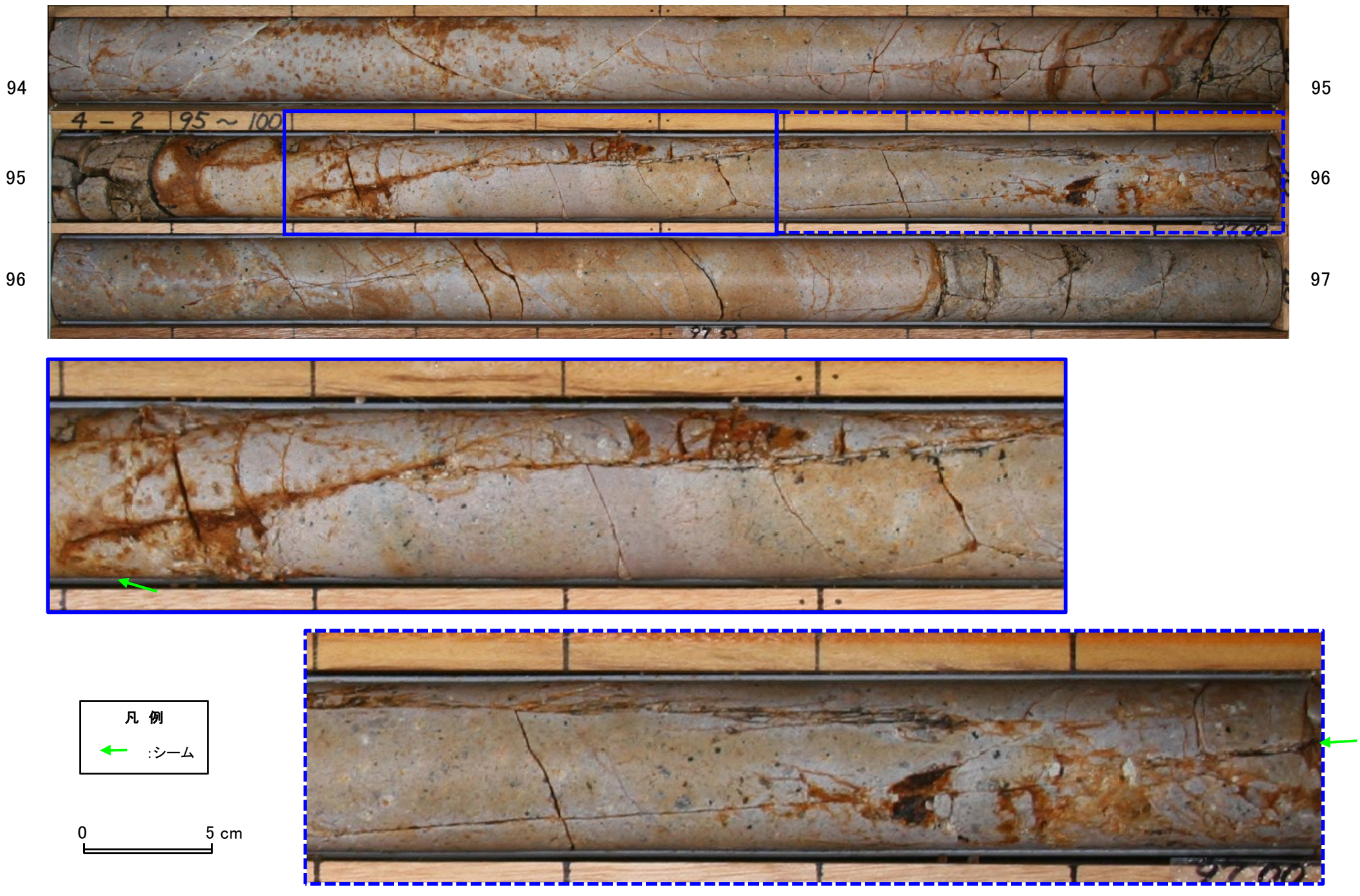

審査資料案

| 記　　事 |
|---|
| 86.95～87.21m，88.00～88.38m<br>・花崗斑岩である。<br>90.00～90.87m<br>・斑点状に褐色化している。<br>91.29～91.40m<br>・変質している。<br>・微細な割れ目が発達している。<br>92.44～93.07m<br>・変質している。<br>・微細な割れ目が発達している。<br><br>95.49～96.20m，98.65～98.95m，<br>99.70～100.00m<br>・花崗斑岩である。<br><br>98.35～98.47m<br>・ペグマタイトである。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　　事 |
|---|
| 86.95～87.21m，88.00～88.38m<br>・花崗斑岩である。<br>90.00～90.87m<br>・斑点状に褐色化している。<br>91.29～91.40m<br>・変質している。<br>・微細な割れ目が発達している。<br>92.44～93.07m<br>・変質している。<br>・微細な割れ目が発達している。<br><br>95.49～96.20m，98.65～98.95m，<br>99.70～100.00m<br>・花崗斑岩である。<br><br>98.35～98.47m<br>・ペグマタイトである。 |

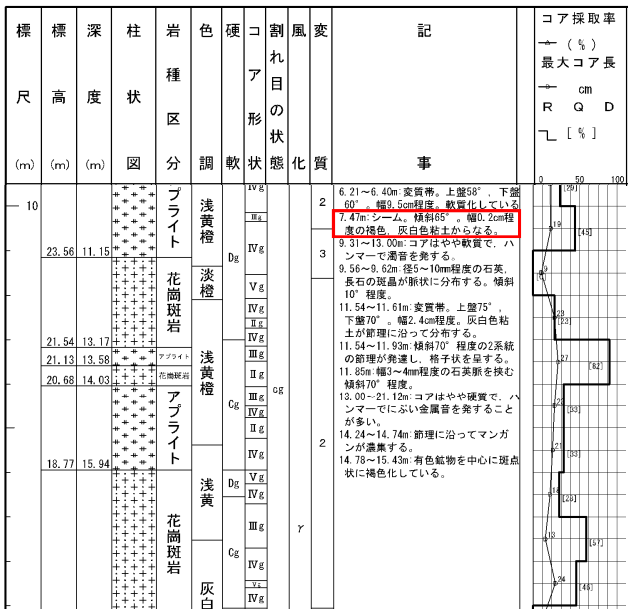
| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 95.30m:シーム。傾斜88°。幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。せん断性節理が認められる。 | 記載なし | 記載なし |



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 7.47m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



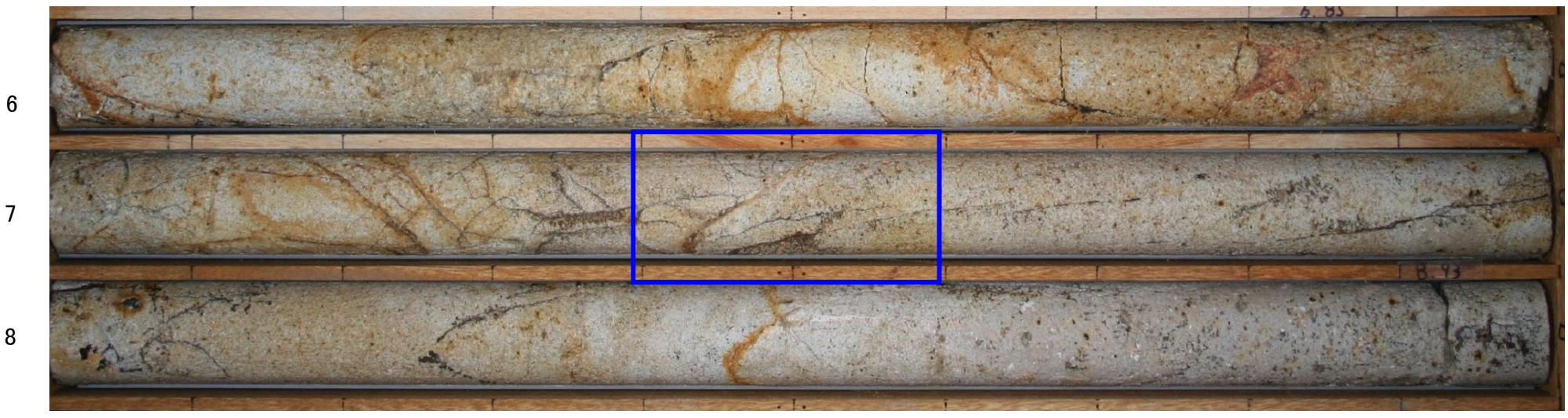

審査資料案

| 記　　事 |
|---|
| 6.21～6.40m<br>・変質している。<br>・軟質である。<br>9.05～11.15m, 13.17～13.58m,<br>14.03～15.94m<br>・アプライトである。<br>11.54～11.61m<br>・変質している。<br>・割れ目が発達し，格子状を呈する。<br>・割れ目に沿って灰白色の粘土を挟む。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　　事 |
|---|
| 6.21～6.40m<br>・変質している。<br>・軟質である。<br>9.05～11.15m, 13.17～13.58m,<br>14.03～15.94m<br>・アプライトである。<br>11.54～11.61m<br>・変質している。<br>・割れ目が発達し，格子状を呈する。<br>・割れ目に沿って灰白色の粘土を挟む。 |

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 7.47m:シーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の褐色，灰白色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし |



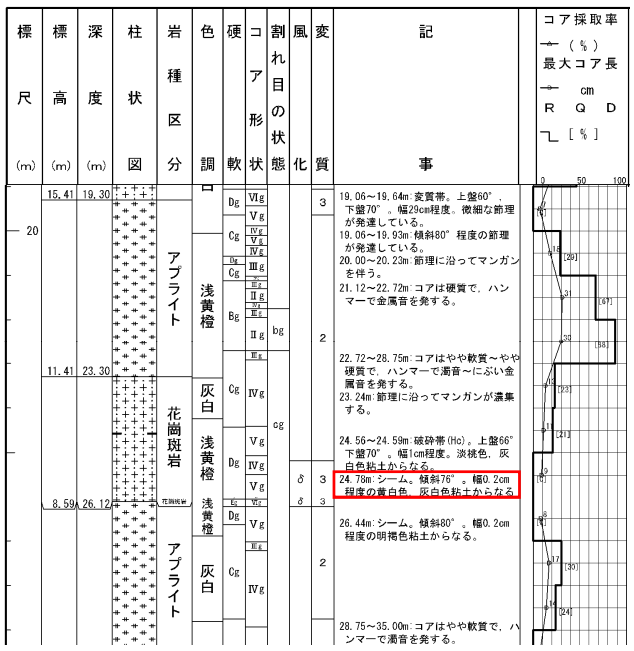
凡 例
:シーム

0　5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 24.78m)

・粘土状を呈するが，その分布はゆるく湾曲し直線性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）




審査資料案

| 記　　事 |
|---|
| 19.06～19.93m<br>・変質している。<br>・高角度の割れ目が発達する。<br>19.30～23.30m<br>・アプライトである。<br>21.12～22.72m<br>・硬質である。<br>22.72～28.75m<br>・やや軟質～やや硬質である。<br>23.30～26.12m<br>・花崗斑岩である。<br>●24.56～24.59m<br>・破砕部である。<br>・淡桃色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。<br>・走向・傾斜はN4°E71°Wである。<br>・上端境界の傾斜は66°，下端境界の傾斜は70°である。<br>26.12～29.65m<br>・アプライトである。<br>28.75～35.00m<br>・高角度の割れ目が発達する。<br>・軟質である。<br>29.65～30.41m，31.60～35.00m<br>・花崗斑岩である。<br>30.41～31.60m<br>・アプライトである。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　　事 |
|---|
| 19.06～19.93m<br>・変質している。<br>・高角度の割れ目が発達する。<br>19.30～23.30m<br>・アプライトである。<br>21.12～22.72m<br>・硬質である。<br>22.72～28.75m<br>・やや軟質～やや硬質である。<br>23.30～26.12m<br>・花崗斑岩である。<br>●24.56～24.59m<br>・破砕部である。<br>・淡桃色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。<br>・走向・傾斜はN4°E71°Wである。<br>・上端境界の傾斜は66°，下端境界の傾斜は70°である。<br>26.12～29.65m<br>・アプライトである。<br>28.75～35.00m<br>・高角度の割れ目が発達する。<br>・軟質である。<br>29.65～30.41m，31.60～35.00m<br>・花崗斑岩である。<br>30.41～31.60m<br>・アプライトである。 |

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 24.78m:シーム。傾斜76°。幅0.2cm程度の黄白色，灰白色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし |

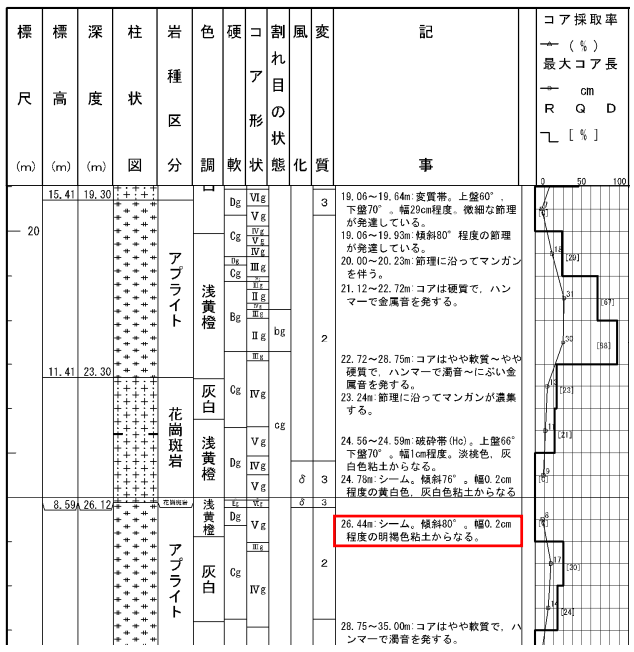
凡 例
:シーム

0　5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 26.44m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



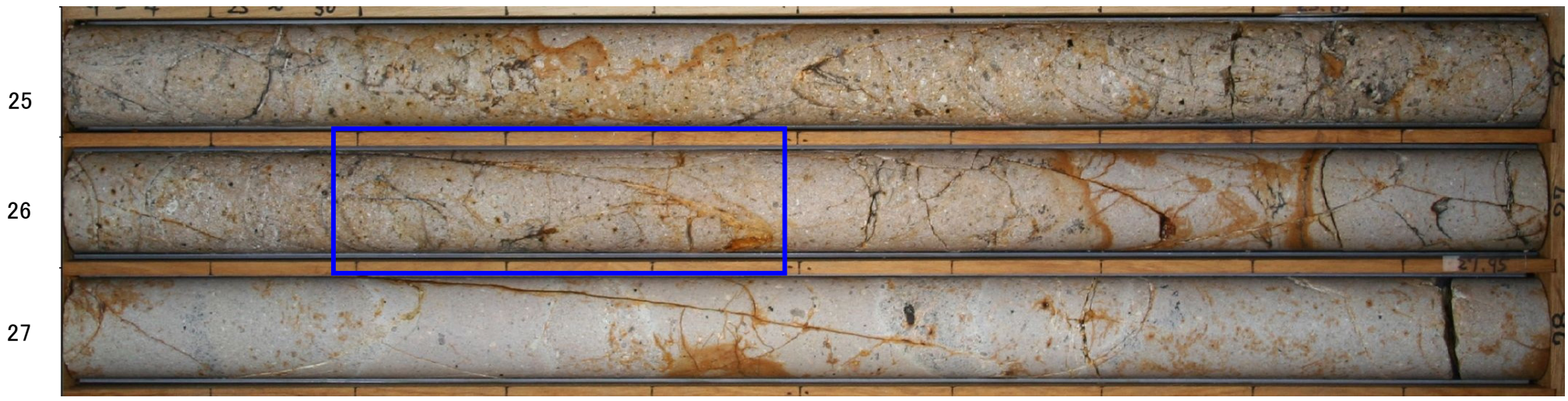

審査資料案

| 記　　事 |
|---|
| 19.06～19.93m<br>・変質している。<br>・高角度の割れ目が発達する。<br>19.30～23.30m<br>・アプライトである。<br>21.12～22.72m<br>・硬質である。<br>22.72～28.75m<br>・やや軟質～やや硬質である。<br>23.30～26.12m<br>・花崗斑岩である。<br>●24.56～24.59m<br>・破砕部である。<br>・淡桃色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。<br>・走向・傾斜はN4°E71°Wである。<br>・上端境界の傾斜は66°，下端境界の傾斜は70°である。<br>26.12～29.65m<br>・アプライトである。<br>28.75～35.00m<br>・高角度の割れ目が発達する。<br>・軟質である。<br>29.65～30.41m，31.60～35.00m<br>・花崗斑岩である。<br>30.41～31.60m<br>・アプライトである。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　　事 |
|---|
| 19.06～19.93m<br>・変質している。<br>・高角度の割れ目が発達する。<br>19.30～23.30m<br>・アプライトである。<br>21.12～22.72m<br>・硬質である。<br>22.72～28.75m<br>・やや軟質～やや硬質である。<br>23.30～26.12m<br>・花崗斑岩である。<br>●24.56～24.59m<br>・破砕部である。<br>・淡桃色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。<br>・走向・傾斜はN4°E71°Wである。<br>・上端境界の傾斜は66°，下端境界の傾斜は70°である。<br>26.12～29.65m<br>・アプライトである。<br>28.75～35.00m<br>・高角度の割れ目が発達する。<br>・軟質である。<br>29.65～30.41m，31.60～35.00m<br>・花崗斑岩である。<br>30.41～31.60m<br>・アプライトである。 |

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 26.44m:シーム。傾斜80°。幅0.2cm程度の明褐色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし |



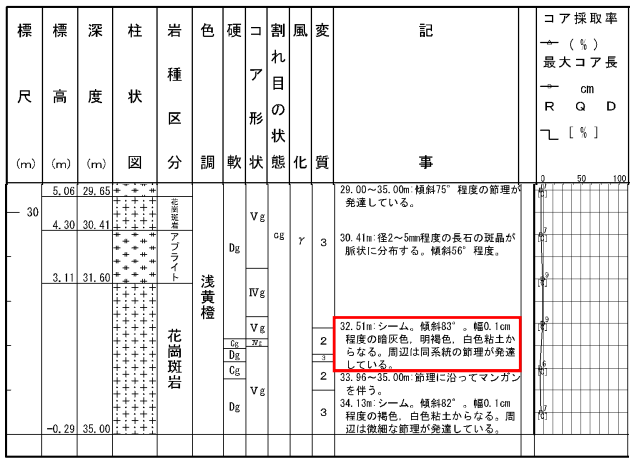
凡 例
:シーム

0　5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 32.51m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

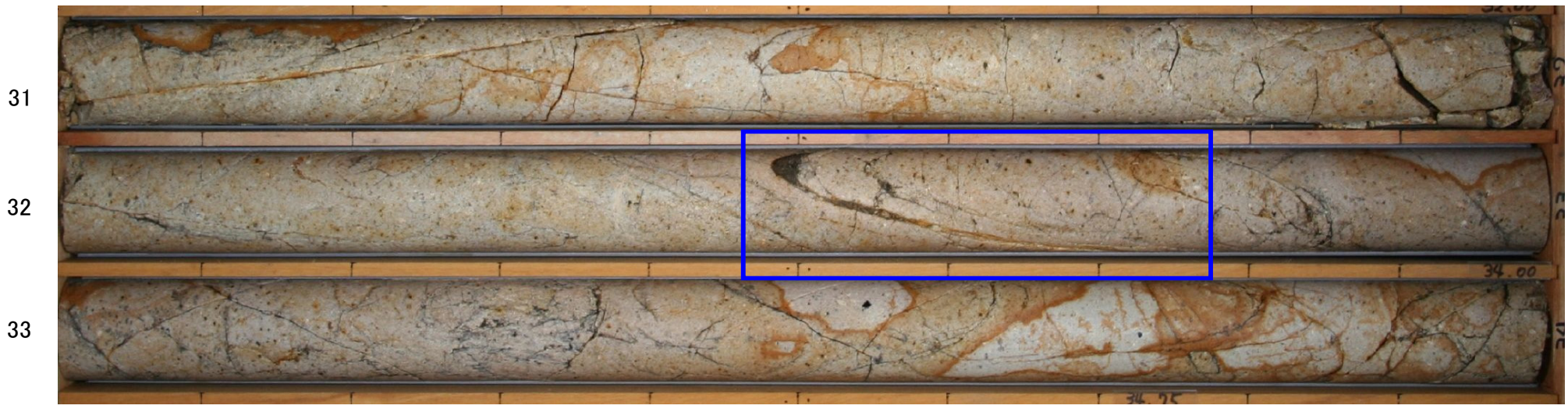
委託報告書
（平成20年）




審査資料案

審査資料
（平成30年11月30日）

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 32.51m:シーム。傾斜83°。幅0.1cm程度の暗灰色，明褐色，白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



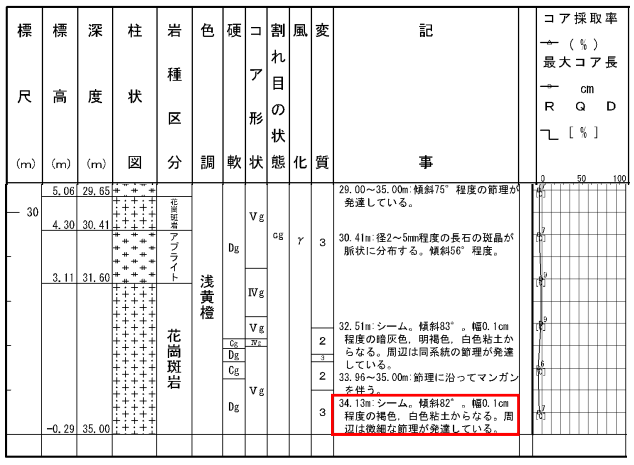
凡 例
:シーム

0　5 cm

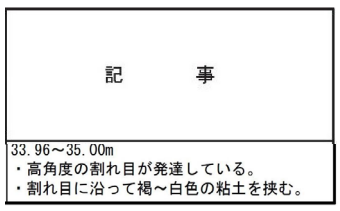
# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 34.13m)

・粘土状を呈するが，その分布は湾曲し直線性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

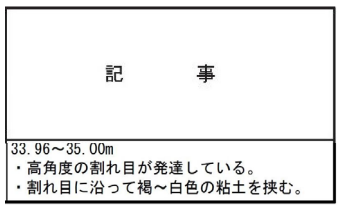
委託報告書
（平成20年）



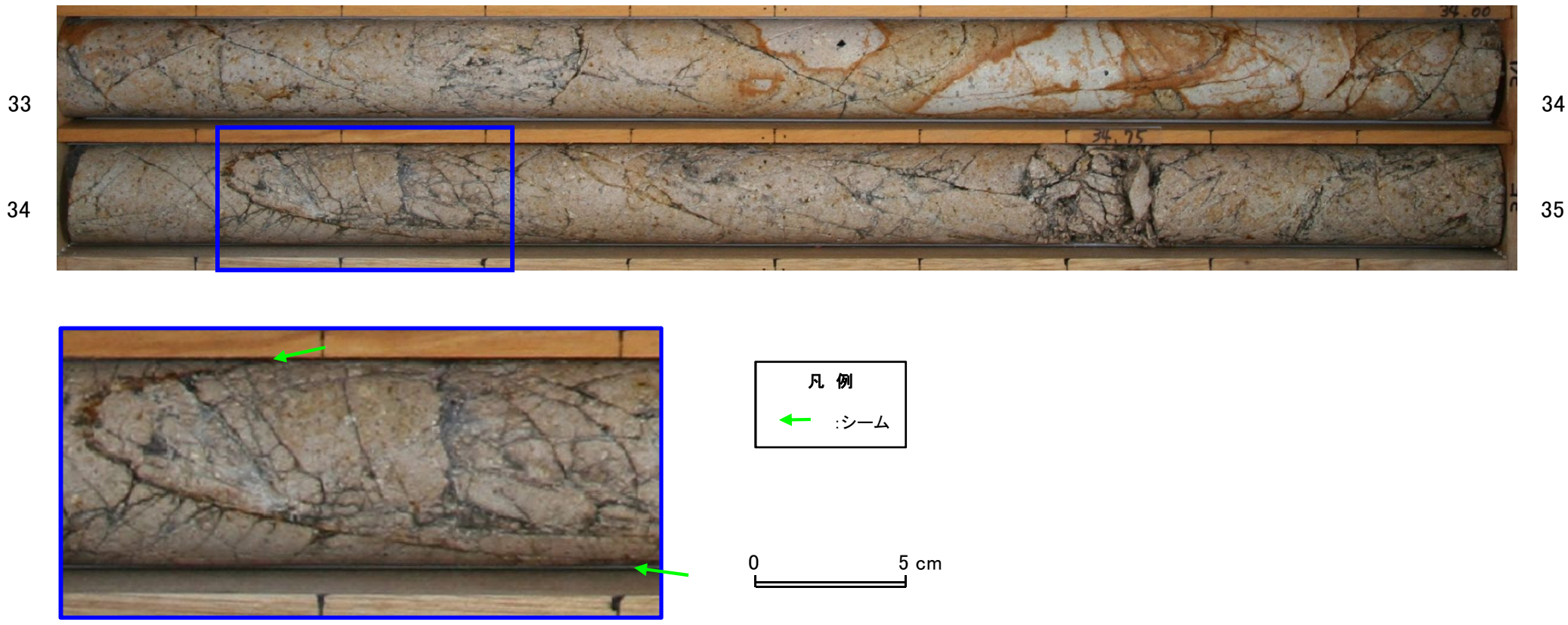

審査資料案




審査資料
（平成30年11月30日）



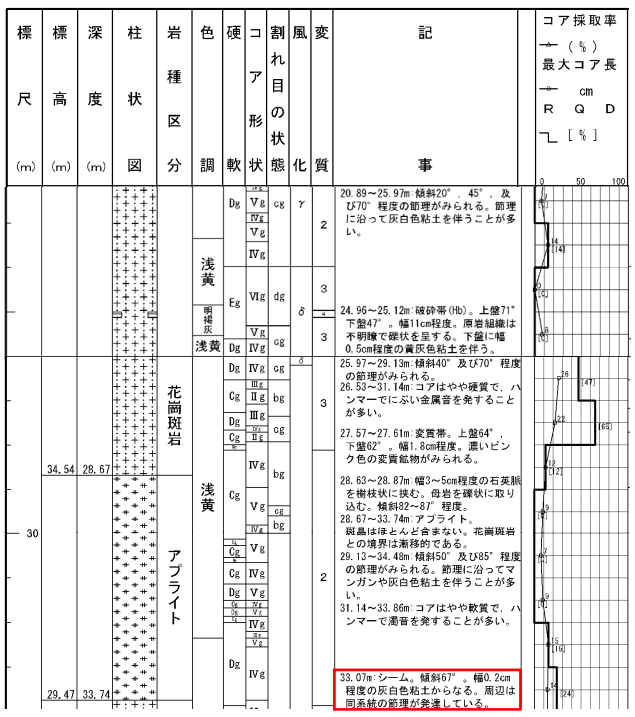

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 33.96～35.00m：節理に沿ってマンガンを伴う。<br><u>34.13m:シーム。傾斜82°。幅0.1cm程度の褐色，白色粘土からなる。周辺は微細な節理が発達している。</u> | 33.96～35.00m<br>・高角度の割れ目が発達している。<br>・割れ目に沿って褐～白色の粘土を挟む。 | 33.96～35.00m<br>・高角度の割れ目が発達している。<br>・割れ目に沿って褐～白色の粘土を挟む。 |



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-5孔 33.07m)

・粘土状を呈するが，その分布は局所的であり連続性に乏しく，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）



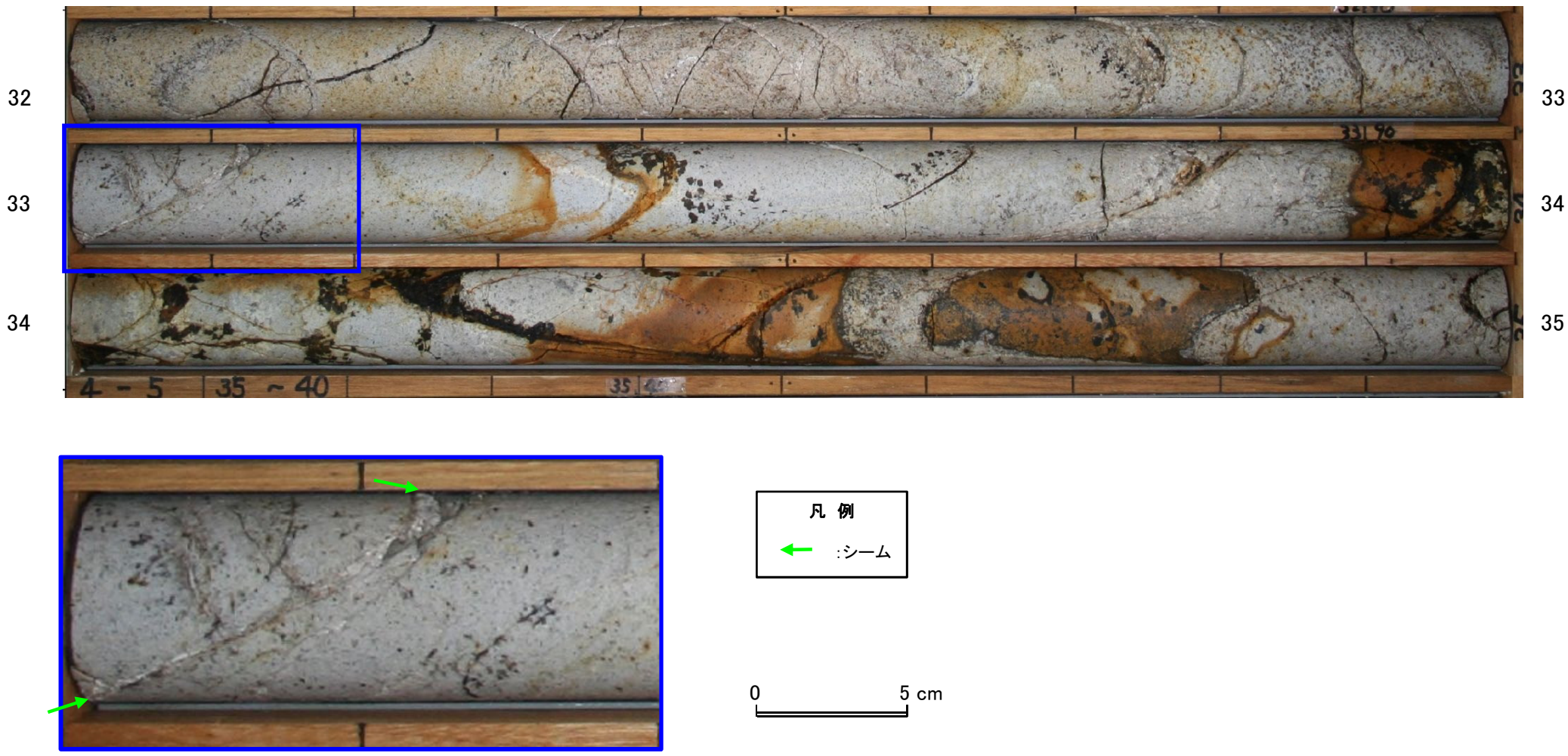

審査資料案

| 記　　事 |
|---|
| ●24.96～25.12m(D-21破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・明褐灰色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN11°E62°Wである。<br>・フィルム状の粘土を挟在する。<br>・上端境界の傾斜は71°，下端境界の傾斜は47°である。<br>27.57～27.61m<br>・変質している。<br>・軟質化している。<br>28.63～28.87m<br>・幅3～5cmの石英脈を挟む。<br>28.67～33.74m<br>・アプライトである。<br>・花崗斑岩との境界は漸移的である。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　　事 |
|---|
| ●24.96～25.12m(D-21破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・明褐灰色の固結礫状部からなる。<br>・走向・傾斜はN11°E62°Wである。<br>・フィルム状の粘土を挟在する。<br>・上端境界の傾斜は71°，下端境界の傾斜は47°である。<br>27.57～27.61m<br>・変質している。<br>・軟質化している。<br>28.63～28.87m<br>・幅3～5cmの石英脈を挟む。<br>28.67～33.74m<br>・アプライトである。<br>・花崗斑岩との境界は漸移的である。 |

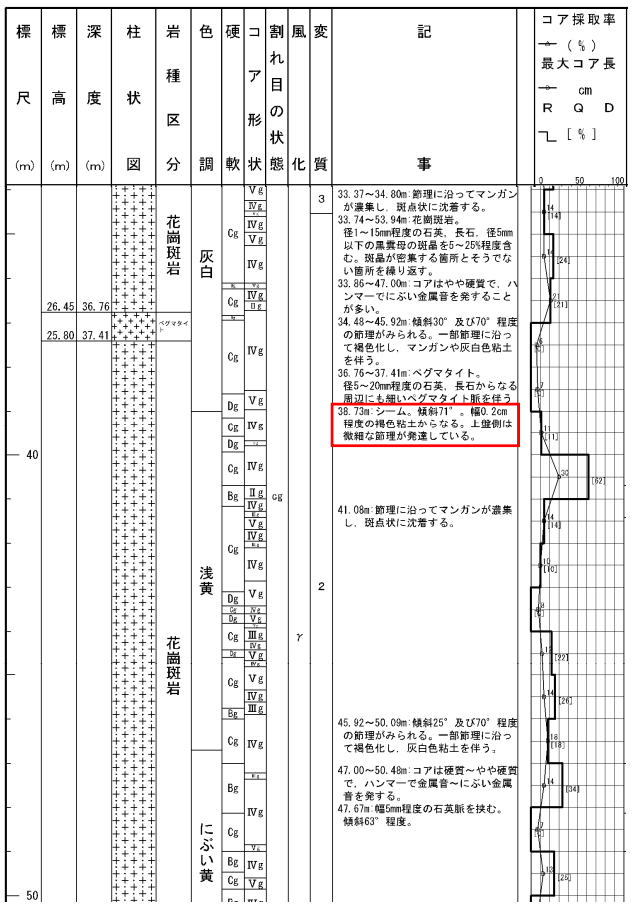
| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 33.07m:シーム。傾斜67°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-5孔 38.73m)

・粘土状部に沿って，原岩組織が不明瞭となる部分が分布していることから，破砕部として認定した。
直線的・連続的な粘土状部の分布が認められないことから，カタクレーサイトであると判断した（平成20年破砕部再観察結果）。

委託報告書
（平成20年）



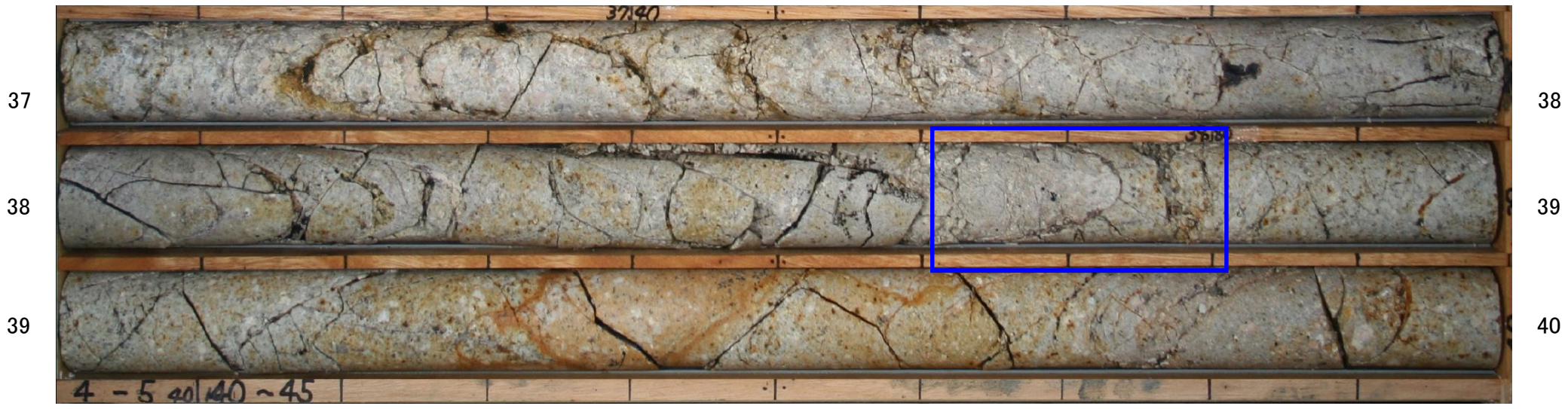

審査資料案

| 記　　事 |
|---|
| 36.76～37.41m<br>・ペグマタイトである。<br><br>●38.73～38.74m(f-④-9-1破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結粘土状部からなる。<br>・走向・傾斜はN9°E70°Wである。<br>・フィルム状の粘土を挟在する。<br><br>47.67m<br>・幅5mmの石英脈を挟む。 |

審査資料
（平成30年11月30日）

| 記　　事 |
|---|
| 36.76～37.41m<br>・ペグマタイトである。<br><br>●38.73～38.74m(f-④-9-1破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結粘土状部からなる。<br>・走向・傾斜はN9°E70°Wである。<br>・フィルム状の粘土を挟在する。<br><br>47.67m<br>・幅5mmの石英脈を挟む。 |

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 38.73m:シーム。傾斜71°。幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。<br>上盤側は微細な節理が発達している。 | ●38.73～38.74m(f-④-9-1破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結粘土状部からなる。<br>・走向・傾斜はN9°E70°Wである。<br>・フィルム状の粘土を挟在する。 | ●38.73～38.74m(f-④-9-1破砕帯)<br>・破砕部である。<br>・褐色の固結粘土状部からなる。<br>・走向・傾斜はN9°E70°Wである。<br>・フィルム状の粘土を挟在する。 |



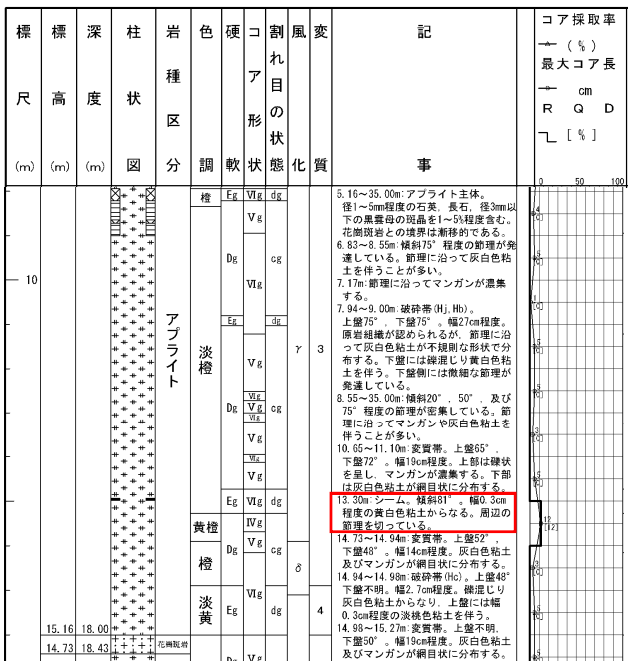
凡 例
:シーム

0　5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-6孔 13.30m)

・粘土状を呈するが，その分布は湾曲・殲滅し直線性・連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

## 委託報告書
（平成20年）




## 審査資料案

記　事

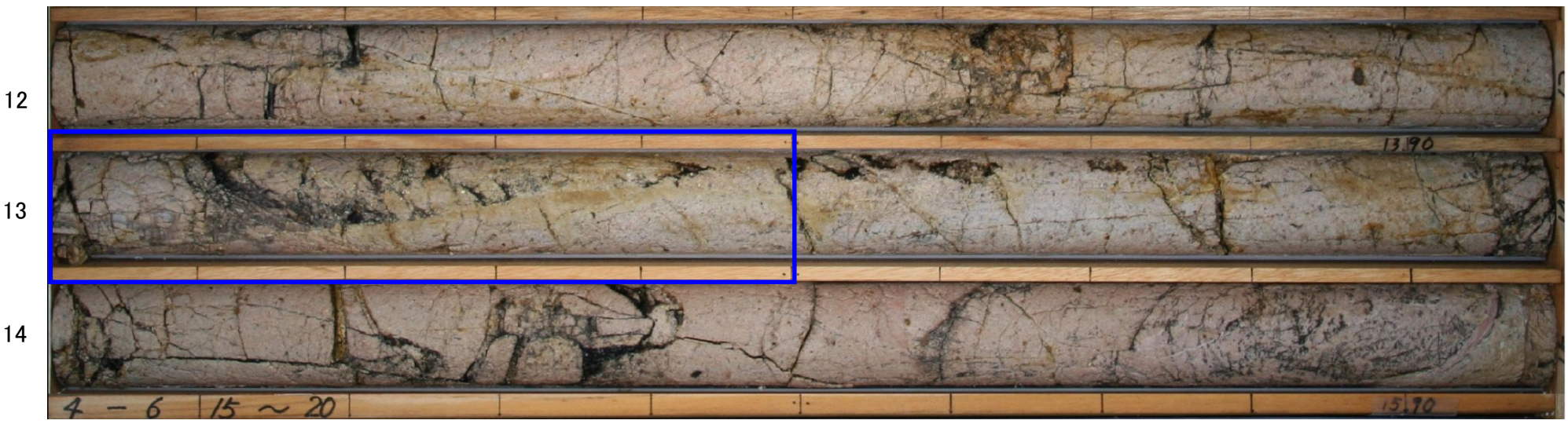
5.16～35.00m
・アプライトが主体である。
・花崗斑岩との境界は漸移的である。
●7.94～9.00m(f-④-6-2破砕帯)
・破砕部である。
・赤褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN71° W79° Sである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は75°である。
10.65～11.10m
・変質している。
・礫状～灰白色粘土が網目状に分布する。
14.73～14.94m
・変質している。
・マンガンと灰白色粘土が網目状に分布する。
●14.94～14.98m(f-④-6-3破砕帯)
・破砕部である。
・左ずれ正断層センスである。
・主に淡橙色の固結粘土状部からなる。
・淡桃色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN55° E69° Sである。
・上端境界の傾斜は48°である。
14.98～15.27m
・変質している。
・灰白色粘土とマンガンが網目状に分布する

## 審査資料
（平成30年11月30日）

記　事

5.16～35.00m
・アプライトが主体である。
・花崗斑岩との境界は漸移的である。
●7.94～9.00m(f-④-6-2破砕帯)
・破砕部である。
・赤褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN71° W79° Sである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は75°である。
10.65～11.10m
・変質している。
・礫状～灰白色粘土が網目状に分布する。
14.73～14.94m
・変質している。
・マンガンと灰白色粘土が網目状に分布する。
●14.94～14.98m(f-④-6-3破砕帯)
・破砕部である。
・左ずれ正断層センスである。
・主に淡橙色の固結粘土状部からなる。
・淡桃色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN55° E69° Sである。
・上端境界の傾斜は48°である。
14.98～15.27m
・変質している。
・灰白色粘土とマンガンが網目状に分布する

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 13.30m:シーム。傾斜81°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。 | 記載なし | 記載なし |



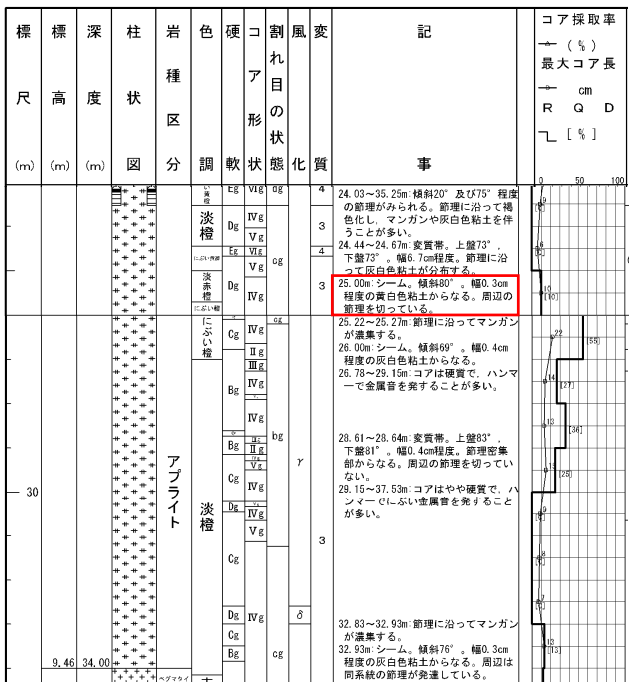
凡 例
:シーム

0　5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-7孔 25.00m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）




審査資料案

記　　事

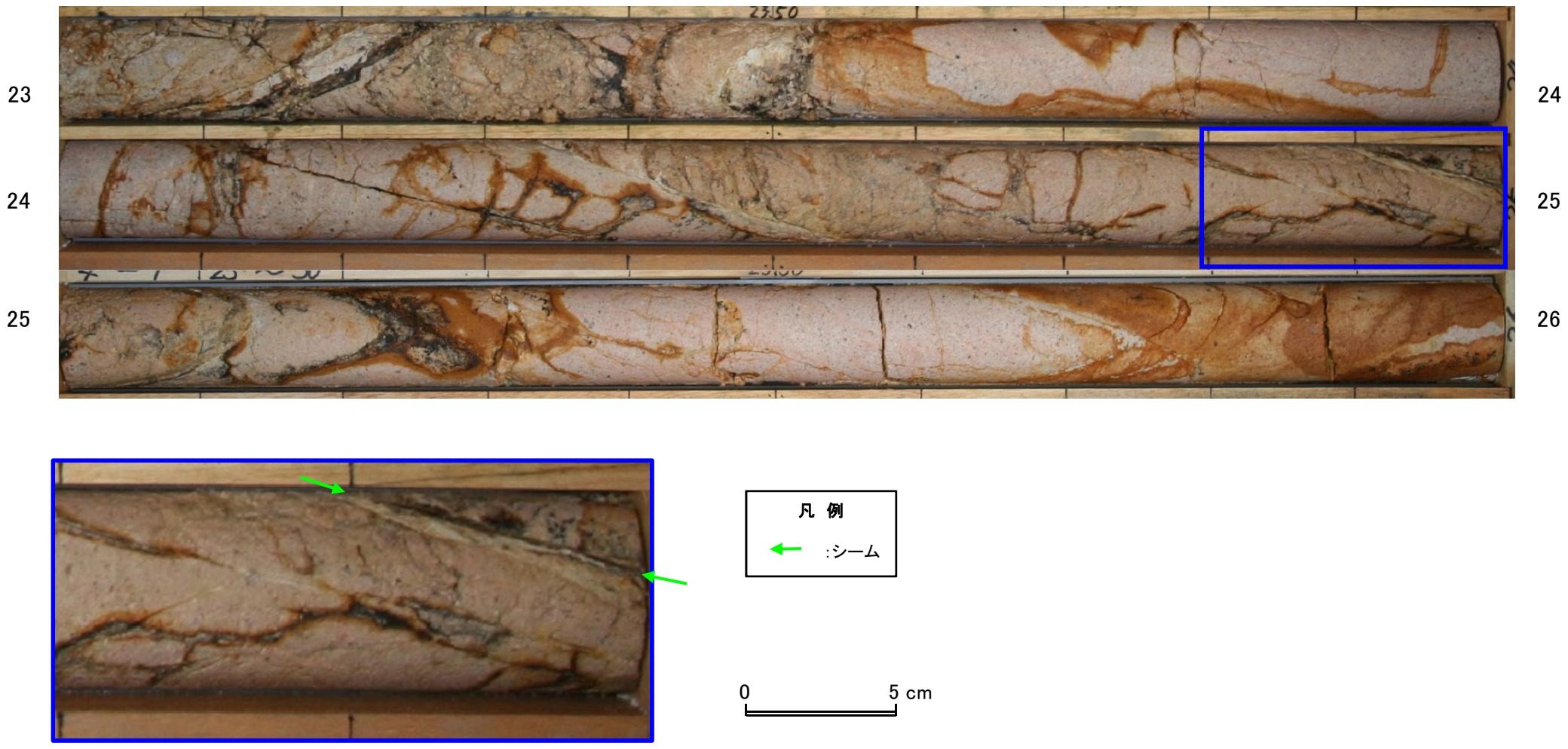
該当記事なし

審査資料
（平成30年11月30日）

記　　事

該当記事なし

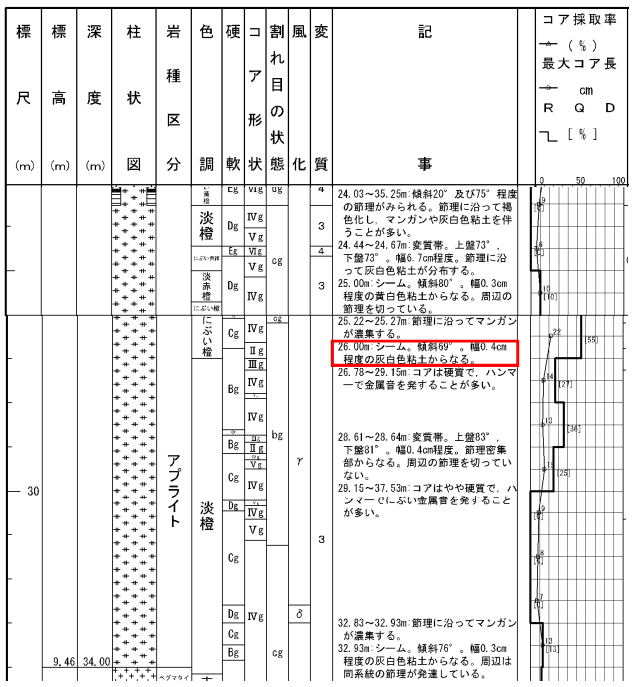
| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 25.00m:シーム。傾斜80°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。 | 記載なし | 記載なし |



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-7孔 26.00m)

・粘土状部にせん断構造・変形構造が認められず，周囲の岩盤に劣化が認められないことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）




審査資料案

記　事

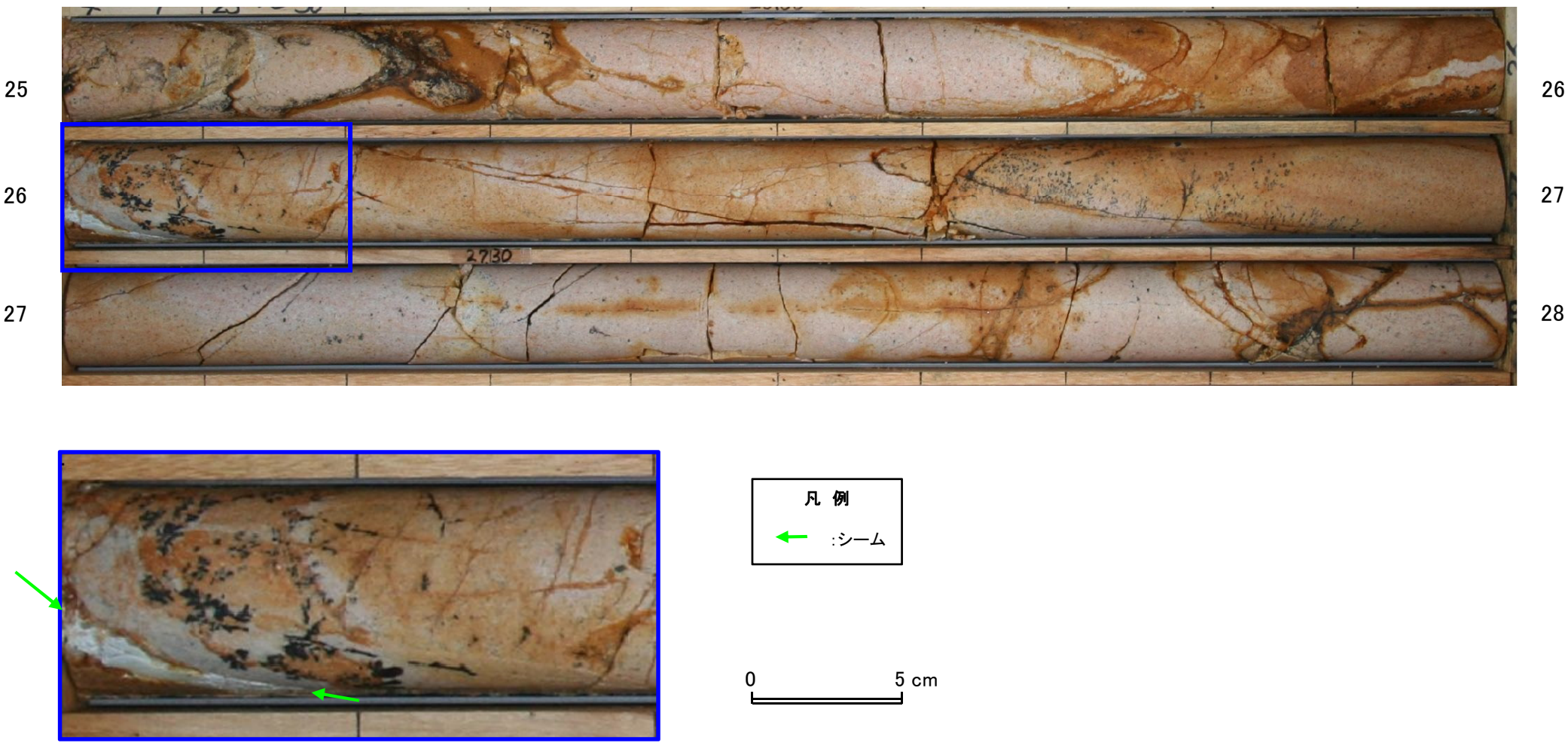
該当記事なし

審査資料
（平成30年11月30日）

記　事

該当記事なし

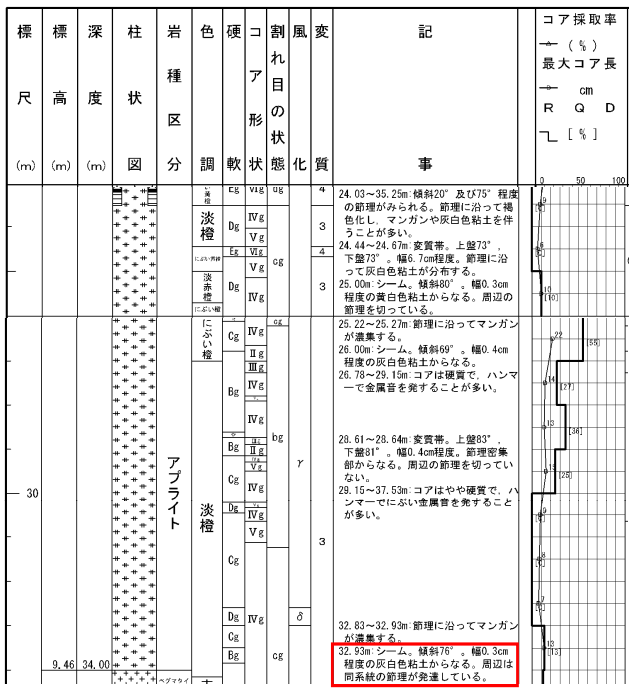
| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 26.00m:シーム。傾斜69°。幅0.4cm程度の灰白色粘土からなる。 | 記載なし | 記載なし |



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-7孔 32.93m)

・粘土状を呈するが，その分布は殲滅し連続性に乏しいことから，破砕部ではないと判断した。

委託報告書
（平成20年）




審査資料案

記　　事

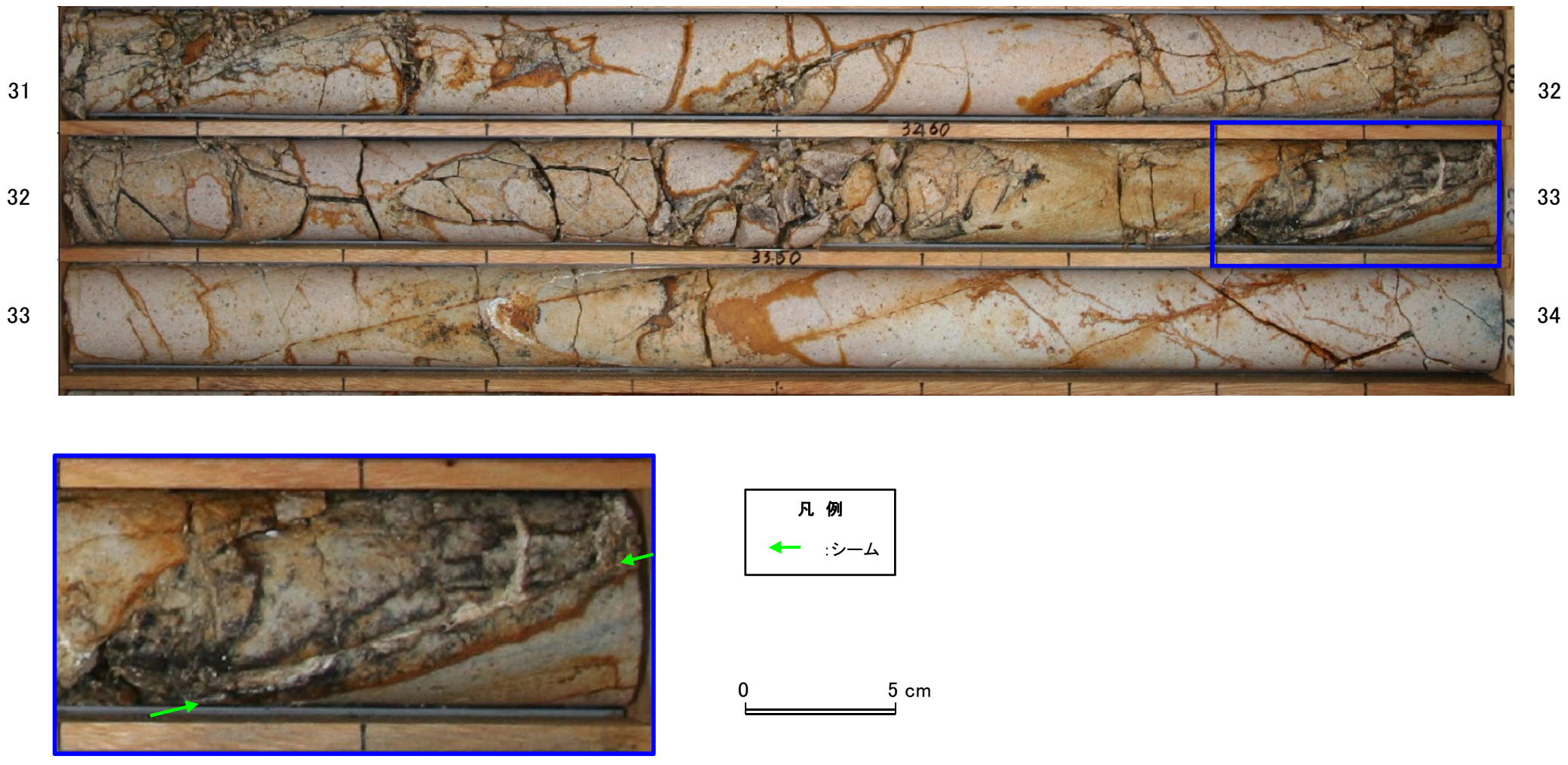
該当記事なし

審査資料
（平成30年11月30日）

記　　事

該当記事なし

| 委託報告書<br>（平成20年） | 審査資料案 | 審査資料<br>（平成30年11月30日） |
|---|---|---|
| 32.93m:シーム。傾斜76°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 | 記載なし | 記載なし |



余白